

基礎研究部門 古典籍・大蔵経総合研究班 大蔵経研究プロジェクト

石山寺蔵 靖邁撰『仏地経論疏』の研究

——卷一・卷六の翻刻——

長谷川 岳史

小野 嶋 祥雄

村 上 明 也

吉 田 慈 順

一 は じ め に

本論文は、大本山石山寺所蔵寺宝「石山寺一切経」に所蔵される靖邁撰『仏地経論疏』卷一・卷二・卷六の内、卷二と卷六の翻刻を目的としたものである。なお、卷一については、すでに『仏教学研究』第七六号（二〇二〇年）に発表しており、今後、研究篇を加えた出版を計画している。この「石山寺一切経」に所蔵される靖邁撰『仏地経論疏』の翻刻に至った経緯等については、卷一の翻刻研究発表時にも記載しているが、ここで再確認しておきたい。

『大唐大慈恩寺三蔵法師伝』において九人の綴文大徳の一人にあげられ、他にも『瑜伽師地論』の証文や『成唯識論』の質文を玄奘（六〇二—六六四）指揮下で担当した靖邁には、数多くの著作があったことが伝えられるものの、現在ではそのほとんどが散逸したと考えられている。『仏地経論疏』もその一つであるが、卷一・二・六については、一九二四年に大屋徳城氏が、また一九八五年には石山寺文化財総合調査団が、

石山寺蔵 靖邁撰『仏地経論疏』の研究

それぞれ「石山寺一切経」〔附第六函〕第一六〇号〈巻一〉・第一六一号〈巻二〉・第一六二号〈巻六〉に平安時代初期の写本が現存することを報告している。

そこで、『仏地経論疏』巻一・二・六の写本閲覧と翻刻許可の願いをお伝えしたところ、大本山石山寺座主 鷲尾遍隆猊下のご高配を賜り、石山寺文化財総合調査団代表 奥田勲先生と奈良文化財研究所文化遺産部歴史研究室長 吉川聡先生より、二〇一九年七月二十七日に写本閲覧の貴重な機会を頂いた。またその後、大本山石山寺、石山寺文化財総合調査団、奈良文化財研究所（所長 松村恵司先生）のご尽力で複写・翻刻の許可と発表の機会を頂いた。ここに深く感謝申し上げる次第である。なお、同時期に落合俊典先生（国際仏教学大学院大学附置日本古写経研究所所長）も『仏地経論疏』巻一・二・六の調査に入っており、今後、互いに連携・調整しながら共同研究を推進することとなった。先生のご厚意に感謝申し上げる。最後になったが、本論文を発表するにあたり、種々ご教示頂いた大本山石山寺事務所の田中様、野呂靖氏（本学文学部准教授）などの関係諸氏に対して御礼を申し上げたい。

二 石山寺藏 靖邁撰『仏地経論疏』の写本について

本論文にて翻刻を試みる靖邁撰『仏地経論疏』は、巻一・二・六が石山寺に存在することが大屋徳城『石山写経選』（便利堂、一九二四年）にて報告されていたものの、近年の研究ではその所在が不明であると考えられていた。大屋徳城『石山写経選』には、

正函、番外函を通じて、此に学界に報告す可き二種の逸書あり。俱に唐朝の述作にして、玄奘門下の撰述に係る。其の一は靖邁の仏地経論疏にして、一、二、六の三卷を存す。其の二は法宝の一乗仏性究竟論にして、一、二、四、五の四卷を存す。前者は番外函中に発見し、後者は諸所を精査して、右の卷数を得たり。即ち巻二及び巻五は正函の中より、巻四は番外函の中より、巻一（首闕く）は聖教（後に説く）の中より之を獲たり。（法宝、靖邁共に宋高僧伝巻四に伝あり。）仏地経論は親光菩薩等の造るところ、玄奘の訳七卷あり、（楢藏書帙に収む）靖邁の斯著ある固より然る可きところ、靖邁は古今訳経図紀（四巻）の著作として顕る。疏は元六卷なりしが如く、奈良朝既に其の伝来ありしも、〈天平十八年五月廿日の借請経疏歴名の中に「仏地経論疏一部六卷靖邁師」とあり。又天平勝宝六年の経疏の名の中に「仏地経論疏六卷靖邁師」とある等其の一例なり〉久しく埋没せしが、今や再び其の半ばを人間に出現することを得たり。（因に靖邁の般若心経

疏一卷は統藏に収載せらる。」

とあり、法宝（六二七頃―七〇六―七一〇？）の『一乗仏性究竟論』と共に靖邁（生没年不詳）の『仏地経論疏』巻一・二・六が「学界に報告す可き二種の逸書」と紹介され、また同書の四三頁では『仏地経論疏』巻一冒頭の一紙分の影印を掲載している。この大屋氏の指摘の後にも、石山寺文化財総合調査団編『石山寺の研究 一切経篇』（法藏館、一九七八年）、同『石山寺古経聚英』（法藏館、一九八五年）の両書において、巻一・二・六が石山寺に所蔵されていることが報告されてきた。しかし、結城令聞氏が『仏書解説大辞典』第九卷（大東出版社、一九三五年）に執筆した『仏地経論疏』の項目、並びに『唯識学典籍志』（大蔵出版、一九六二年）では、写本の現存は伝えられているものの、その所在が記載されなかったため、近年の靖邁に関する研究において『仏地経論疏』は、所在不明の文献と見なされてきたのである。

三 靖邁の伝記と著作

『仏地経論疏』の著者である靖邁の伝記については、智昇『開元釈教録』巻八と贊寧『宋高僧伝』巻四「唐簡州福聚寺靖邁伝」が基本資料となる。『開元釈教録』と『宋高僧伝』の記述は以下の通りである。

①『開元釈教録』巻八

古今訳経図紀四卷

右一部四卷其本見在。

沙門釈靖邁。簡州人也。以博学馳誉。大唐三藏翻訳衆経、召充綴文大徳。後大慈恩寺翻経堂中、壁畫古来伝訳縮素。靖邁於是緝維其事。撰成図紀題之于壁。但略費長房録統逮皇朝。直述訳経余無所紀。

（大正五五・五六二中）

②『宋高僧伝』巻四「唐簡州福聚寺靖邁伝」

釈靖邁。梓潼人也。少孺矜持、長高志操。特於経論研覈造微、気性沈厚不安交結。遊必挾方、抵于京輔。貞観中属玄奘西廻、勅奉為太穆太后、於京造広福寺、就彼翻訳。所須吏力、悉与玄齡商量、務令優給。遂召証義大徳諳練大小乗経論、為時所尊尚者、得一十一人。邁預其精選、即居慈恩寺也。同普光寺棲玄、広福寺明濬、会昌寺辯機、終南山豊徳寺道宣、同執筆綴文。翻訳本事経七卷。邁、後与神昉筆受於玉華

石山寺蔵 靖邁撰『仏地経論疏』の研究

宮及慈恩寺翻経院。皆推適変故得経心矣。後著訳経図紀四卷。銓序古今経目訳人名位单訳重翻疑偽等科。一皆条理見編于藏。開元中智昇。又続其題目焉。

(大正五〇・七七下〜七二八上)

『開元釈教録』と『宋高僧伝』が伝えるところによれば、靖邁の生没年については不明であるが、現在の四川省の出身で、玄奘の訳経に綴文の役割などで参画した人物である。玄奘訳の経論に付されている序文などには、貞観二十(六四六)年五月訳出の『瑜伽師地論』に「簡州福衆寺沙門靖邁証文」(大正三〇・八八一下)、顕慶元(六五五)年七月訳出の『阿毘達磨大毘婆沙論』に「大慈恩寺沙門静邁綴文」(大正三〇・八八一下)、顕慶四(六五九)年九月訳出の『阿毘達磨法蘊足論』に「大慈恩寺沙門釈光筆受靖邁飾文」(大正二六・五一四上)、同年閏十月訳出の『成唯識論』に「沙門釈靖邁等質文」(大正三一・五九下)とその名(靖邁、静邁)が見られる。加えて、『大唐大慈恩寺三蔵法師伝』巻六には「簡州福衆寺沙門静邁」(大正五〇・二五三下)とあり、九人の綴文大徳の一人としてその名が挙げられている。

柴田泰山氏の研究によれば、靖邁には以下の著作があったとされる。⁽¹⁾

- ① 『般若心経疏』 一卷 (新纂続蔵二六所収)
- ② 『仏地経論疏』 六卷
- ③ 『法蘊足論後序』 (大正二六所収)
- ④ 『菩薩戒羯磨序』 (大正二四所収)
- ⑤ 『能断金剛般若経疏』 二卷
- ⑥ 『十輪経疏』 八卷
- ⑦ 『称讃浄土経疏』 一卷
- ⑧ 『菩薩蔵経疏』 十卷
- ⑨ 『勝鬘経疏』 一卷
- ⑩ 『弥勒成仏経疏』 一卷
- ⑪ 『葉師本願経疏』 一卷

⑫ 『天請問經疏』 一卷

⑬ 『十一面經疏』 一卷

⑭ 『掌珍論疏』 二卷

⑮ 『因明入正理論疏』 一卷

⑯ 『古今訳経図紀』 四卷（大正五五所収）

この中、『仏地経論疏』以外に現存する著作は①③④⑯の四著作とされるが、⑦『称讃浄土経疏』一卷は源隆国編『安養集』に逸文のあることが指摘されており、また七寺一切経中の玄奘訳『唯識二十論』の後序も靖邁の撰述であることが落合俊典氏によって報告されている。⁽²⁾

註

(1) 柴田泰山「靖邁『称讃浄土経疏』について」(『印度哲学仏教学』一九号、二〇〇四年)を参照。

(2) 落合俊典「唯識二十論後序の著者」(『印度学仏教学研究』五六卷

第二号、二〇〇八年)、同「日本古写一切経中の唯識二十論後序」

(『仏教文献と文学 日台共同ワークショップの記録 2007』所収、国

際仏教学大学院大学フロンティア実行委員会、二〇〇八年)を参照。

石山寺所蔵 靖邁撰『仏地経論疏』巻二の翻刻

【凡例】

一、本翻刻は石山寺蔵『仏地経論疏』巻一・二・六のうち巻二の全文翻刻である。

二、本資料の書誌情報は以下の通りである。

体裁…卷子本

表題…仏地経論第二(外題箋)

首題…なし

石山寺蔵 靖邁撰『仏地経論疏』の研究

尾題…仏地経論卷第二

法量…縦二十七・五糎、横（原表紙なし、第一紙から第二十七紙は五十・二〇五十二・二糎（ただし第十八紙は四十八・七糎）、第二十八紙

は四十三・三糎）、行数二十八行内外、字数二十五字内外

紙数…二十八紙

料紙…穀紙

界線…淡墨界、界高二三・二糎、界幅二・〇糎程度

備考…朱筆（一部、墨筆）にて合点・句切点（一部、訓点）あり。

一、翻字は原態通りを原則としたが、異体字・略字については現行の活字体に改めた。また、「已」と「己」、「令」と「今」など、判別のつきにくい文字については可能な限り文意で判断した。

一、朱筆（一部、墨筆）の合点や区切り点等は、原本通りの位置に、傍点、傍線、ピリオド、中点等で示した。

一、各紙数は【】で括って示し、行取りは原本に準じたうえで、行頭に通しの行数番号を記した。

一、補入については原本通り本文の右に翻刻した。

一、合点が付されている誤写と思われる文字については、後註にて推定文字を記した。また文脈上から誤写や別字の可能性などが想定される場合は、その旨を後註にて記した。

一、虫損などにより判読不能の文字については、□によって字数分の空格を示し、その文字が想定される場合には□内に文字を記した。

一、判読が難しい文字については■で示し、想定される文字を後註にて記した。

【第一紙】

001 着涅槃者一向趣寂也此即広解経二現行及広解徳障字世尊無

002 彼現行二障者広解経不二現行及広解徳世尊一向無障三結会前

003 経此中若約能不住即是智慧所不住即是涅槃文意正取所不、

004 住涅槃為断徳也 自下三徳即仏恩徳第二調化功德明仏大慈与三

005 乗衆生涅槃樂故文中有三初牒経文二依経立徳三釈経成徳就此

006 釈經成德中有二初釈經無相法謂涅槃法遠離十相故名無相法二
 007 仏善了知^下釈經趣字謂仏了知三乘有情根欲差別隨彼堪能応其根欲
 008 設諸方便而調化之如實為說三乘涅槃令彼各々趣証三乘無相涅槃
 009 法也第三觀所調化功德即是大悲文中有三初牒經文二依經
 010 立德三釈經成德言住大悲者正解經文大悲是諸仏所住諸仏
 011 常住於大悲故言住於仏住昼夜六時觀世間者弁大悲用即解德
 012 觀所調化謂諸仏昼夜六時觀世間有所応調化之機心機
 013 調化第四得一切仏相似事業功德即是大喜大捨文中有三初牒
 014 經文二依經立德三釈經成德一切諸仏皆以利衆生為事業如來初得
 015 大円鏡智時即証得平等性智即同諸仏利益衆生事業相似得此
 016 相似事業調化可々化々衆々生々若皆得度諸仏爾時平等慶喜捨於
 017 分別會於平等上來三德明恩德訖 第五永斷所治功德即是智、
 018 德文中有四初牒經文二依經立德三謂已証得解脫二障智者釈經到
 019 無障處此明出纏之智即大円鏡等智也此智出纏故言到無障處四及
 020 已永斷一切障故者釈德永斷所治對所顯能當知第一徧明斷德
 021 此第五徧明智德 自下有四德明仏四無畏第六降伏外道功德即是
 022 正等覺無畏文中有四初牒經文二依經立德三謂仏正法一切外道不
 023 退轉者釈經不可転法仏即応覺也謂仏正等覺一切法有諸外道
 024 難如來不能正等覺一切法如來於此得無所畏故一切外道不能退
 025 転四降伏彼已顯正道故者釈德降伏外道由降伏外道已顯如來

026 是正等覺道者故言顯正道故第七降魔怨功德即是漏盡無畏文
 027 中有四初牒經文二依經立德三釈經成德四結會前經就釈經成、
 028 德中有四初牒經所行解言所行即色等境者覺色等取声香味
 029 触此五境即是五欲能生衆生貪欲等煩惱二此所行下解德中魔
 030 【第二紙】
 030 怨謂此所行五欲之境能擾乱行心障礙善故說名魔怨三諸仏世尊
 031 下釈經無礙字謂極善不乱極惡不礙故言無礙外道難如來漏不
 032 盡今明如來由漏尽故所以於善於惡無所分別故能降伏外道而無所
 033 畏四以能摧伏一切境界釈德降伏字此中明如來達一切五欲境界体空
 034 不為所縁相応二縛所縁以所能摧伏一切境界四一切所行下結會前經
 035 第八安立法教功德即是障法無畏文中有三初牒經文二依經
 036 立德三釈經成德就釈經成德中謂仏安立一切法教者釈■其所
 037 成立釈德安立法教也超遇一切尋思境故者釈經不可思議此
 038 明仏安立法教云苦能障礙聖法無有外道能難如來苦不能障
 039 礙聖法以如來所安立法教超遇一切外道尋思境故第九記別三
 040 世功德即是出苦道無畏文中有三初牒經文二依經立德三釈
 041 ■成德謂諸外道難如來云道不能出苦由諸如來能照達三世知
 042 三世等苦本性自空故道能出離於外道難得無所畏上來四德
 043 明仏四無所畏訖 自下有八德明仏三身初六明化身中一明自性
 044 身後一明受用身前六中就第十示現天宮來下功德中其文有

045 三初牒經文二依經立德三釈経成徳謂現化身普從觀史天宮俱
 046 時來下於一切百億洲渚同入母胎第十一斷疑功德中文亦有三初
 047 牒經文二依經立德三釈経成徳謂於化身示現妙觀察智了一切法
 048 於一切法更無疑滯第十二於一切乘示現自身功德中文亦有三初牒
 049 經文二依經立德三釈経成徳謂成所作智能遍了知一切有情性行
 050 差別如其性行示現五令之身為大覺悟而成就之第十三能隨所応
 051 恒正教誨功德中文亦有三初牒經文二依經立德三釈経成徳謂
 052 於化身示現妙觀察智於懷疑不能自決有情能正教誨無有休廢
 053 前於境不了為了此無能了智教生此智第十四無染自身功德中文
 054 亦有三初牒經文二依經立德三釈経成徳謂成所作智示現六道之
 055 身不可謂同六道有虛妄分別以如來無煩惱業生三種虛妄雜染分
 056 別故雖復現六道身能正摂受無染自身也第十五成就仏種不斷
 057 方便功德中文亦有三初牒經文二依經立德三釈経成徳謂諸仏示
 058 現妙觀察智利物無斷是以昔為菩薩時為令仏種無斷絶故勤

【第三紙】

059 修加行求此後得方便妙智今既成滿還以方便示現是以還為一切菩
 060 薩所求文自有三初正明勤修加行二非声聞下簡小異大三是故下結
 061 仏妙智唯菩薩求上來六句示現化身訖第十六自性身分功德中文亦
 062 有三初牒經文二依經立德三釈経成徳就釈中有四初解無二二三云
 063 縁彼勝定下次解住字三即無二下次解勝彼岸四仏已窮証下次

064 解得字就解無二中又三初釈無二名二仏無二住下出無二体三
 065 無差別相下弁無二身離相分別不能縁行第十七受用身分
 066 功德中文有三初牒經文二依經立德三釈経成徳就釈経成徳
 067 中有四初約諸仏自受用身解不相間雜以一切如來受用身体雖各
 068 別不相間雜二如來妙智下約解脱妙智解不相間雜文中有三初
 069 解々脱妙智二仏於此智下解釈究竟三如是即說下結智異身
 070 言如來妙智不相間雜者結智聞身不相間雜謂一切諸仏雖間
 071 以後得妙智解脱衆生而後得妙智亦各差別不相間雜三於淨
 072 仏土下明諸仏現他受用身亦不相雜以各從自大円鏡智相応淨識大
 073 悲種子而顯現故大集会中下明仏隨諸菩薩十地不聞現種々
 074 身或僦或妙与諸菩薩受用法樂亦不相雜四如來於此下結隨
 075 自他受用身依前智成身隨智亦到究竟上來八德明仏三身訖
 076 自下四德重明三德初二是斷德中一是智德後一是恩就初中初一
 077 是本來清淨真如二是泯滅所顯真如第十八証真如相功德即是
 078 自性涅槃其文有三初牒經文二依經立德三釈経成徳就釈経成
 079 徳中有四初言謂真如相無有中辺者出無中辺体二遠離一切下
 080 以二義釈無中辺名三如是下即前真如以解仏地平等四解証
 081 字由証仏地平等性故遍知一切為無為等兩種中辺並是、
 082 遍計所執無所深着就第二言兩義釈無中辺者初義明真如
 083 遠離一切有為無為中辺相故者如計有為以為定有即是常

084 辺計為定無即是断辺離有離無名之為中此之三種計為定
085 性並是遍計所執証真如時此相並離故言遠離一切中辺相也如
086 有為既然無為亦爾第二義明真如遠離方処中辺相故者随遍
087 計情計有十方之処以之為辺於十方内計之為中証真如時間
088 一真如法界平等無別故遠離方処中辺於也第十九証得果相

【第四紙】

089 功德即是抵減涅槃文中亦三初牒經文二依經立德三釈経成
090 徳就釈経成徳中言謂得窮極清浄法界是修道果者謂因
091 修道以智離障終得窮極証清浄法界如是出纏真如法界所
092 以得清浄者由修道離障而得故出纏真如是修道証得果也已上二徳
093 明仏断徳第二十自利功德即是智徳第二十一利他功德即是恩徳此二
徳文

094 一処合解其文有四初生起二徳経文二尽虚空下牒二徳経文三顯
095 示世尊下依経立二徳名四謂如虚空下釈経成徳就此文中有二初
096 釈経尽虚空性成世尊自利徳謂如虚空雖復経成劫壞劫而虚、
097 空性常無有尽此釈経文如來一切下釈成自利徳謂如來一切自利真実
098 功德如虚空如性常無断尽経文但有喩論師約法以成也二如未來証下
099 釈経窮未來証成尊利他功德初言如未來際無有尽期是釈経自
100 下釈成利他徳経但举未來為喩論師約法以成也上來第一復次解
101 経訖自下第二復次重釈前経文中有三初総別分別二由二十下明総由

102 別成三不二現行下牒別解釈就初総別分別中有三句初句顯示功德
103 有総有別二初句是総下明総別之相三如是下結歎為說法宗要謂立
104 総徳以二十一句開顯総徳之義是說法之宗要也第二言総由別成者謂、
105 最清浄覺総句由二十一別句而成也 第三不二現行下牒別解釈
106 其中有二十一功德大分為三初有五徳明仏三徳二不可転法下有四徳
107 明仏二智三其身流布下有十二徳明仏三身就初三徳中初二智
108 徳次一是恩徳次一具三徳後一是智断二徳初智徳中前是後得智後是
109 無分別智及後得智第一於所智境一向無障智転功德中文有五、
110 初牒経文二依經立德三釈経成徳就釈経成徳中有三初举声

111 聞於境有障智有知不知二種現行二如來不爾下明仏於境無、
112 障智無有知不知二種現行三故説名下結釈前経四由此下結
113 別成総五余句皆下以前例後初中有二一明声聞於境有障礙智
114 有知不知二極遠下弁障礙不知相謂声聞於極遠八万劫外時極
115 遠三千界外方及無辺差別諸仏不共法中並無智転々者縁也謂
116 声聞於仏不共法中無智能縁唯此則於近時近方及共仏法無障、
117 有知此則明有知就就第二句中有二初明如來於一切時方及無辺差
118 別諸二種現行仏法中一切種智無障礙転二於諸法相無有知及不知

【第五紙】

119 二種現行余三句可解前復次明無有凡夫二乘二種現行二障名不二現
120 行今約後得智於諸法相無有知不知二種現行為不二現行

121 第二能入無二功德中文亦有三初牒經文二依經立德三釈経成徳
 122 就釈経成徳中有二初明如来自能入無就此文中自有三句一能入
 123 永離一切分別自相法執二能入解脫一切煩惱纏垢離此二障即是
 124 釈滅真如三能入離有無相清淨此是本性清淨真如有無之相並
 125 是遍計所執本空故言離有無相清淨真如當知上能入字及下
 126 真如字並通三句二亦令他入々者証也自既以無分別智証此三句真
 127 如亦以後智令他証也前復次以大慈教諸衆生趣無相涅槃法今以
 128 二智自趣無相真如法亦教他趣第三任運仏事不休息住功德即是
 129 恩徳文亦有三初牒經文二依經立德三釈経成徳就釈経成徳
 130 中有二初言無功用利有情事無有間斷正解經中初住字及解功
 131 徳二安住聖天及梵住故者出經中仏住体聖謂聖住即空無
 132 相願天謂天住即四靜慮梵謂梵住即四無量心如來常安
 133 住此三法無有功用利有情事無有間斷故言住於仏住前、
 134 復次唯約大悲以解住於仏住但取梵住少分為言今此広論
 135 三住唯広略為異耳第四於法身所依意樂作業無別功
 136 徳中文亦有三准前可知就第三釈経成徳中謂一切仏真如
 137 解徳中法身無別淨智解徳中所依無別以無分別智是後得智所依
 138 故一切利益安樂意樂下解徳中意樂作業無別此三身無別即是
 139 經中一切仏平等性真如是法身淨智是自受用身余文是他受用
 140 及變化二身前後復次約平等性智於慶悅物情其心平等捨於分

141 別以釈一切仏平等性今約三身以釈一切仏平等性此即具智斷
 142 恩三徳第五已修一切障対治功德中文亦有三如前就第三釈経
 143 成徳中有二初云已修一切煩惱所知対治聖道者釈功德二已到、
 144 解脫下釈経到無障処言已到解脫一切障処者即是真々如々是一切
 145 功德所依諸聖所趣故名為処前後兩復次俱是智斷二徳上來
 146 五徳明仏三徳訖自下四徳明仏二智初一徳双明教証二智中一徳唯
 147 明証智後二俱明教智第六不為一切外道所伏功德中文三如前就
 148 第三釈経成徳中謂仏教証二智法皆不為他外道所退転故言
 149 【第六紙】
 150 不可転法前後復次中約正等覺無畏不為外道所転以解不可
 151 転今約教証二智不為外道所転名不可転与前亦無別第七雖
 152 生世間世法不礙功德中文亦有三就第三釈経成徳中謂仏生
 153 世間利等八法不能為礙故名所行無礙此明如來由無分別智証
 154 平等理達世法本空故不為利等八法所礙前後復次由内尽諸漏所
 155 以外達境空此亦如是但以前言降伏魔怨功德約五欲境能生
 156 煩惱魔降伏此魔所以前名漏尽無畏今明八法不礙於智故
 157 說為証智第八安立正・功徳文亦有三就第三釈経成徳中初明
 158 十二分殊勝教法釈経所成字并釈徳安立法十二分即十二部経
 159 出過一切尋思愚夫不能測度釈経不可思議宣說一切自相共
 相故正釈安立者釈論安立正法現量所知境名自相比量所知

160 境名共相与前復次亦無別也第九能正記別功德中文亦有三
161 就第三釈経成德中言流転者釈経遊字句謂教法義調理
162 法此之句義即釈経法性字會現当下釈経平等謂仏記別去
163 来色心句義如於現在字分明無例故言遊於三世平等法性
164 前次亦無異也此二德俱明教智上来四德明仏二智 自下十二德明
165 仏三身前六明他受用身及變化身次一明法身次一明受用身次一具
166 明三身次一明他受用身及變化身次一明自受用身末後一通他、
167 受用及變化身第十受用變化身功德此言受用者謂隨他受用身
168 下五德例通此二俱是化他身故前復次第十唯是變化身第十一斷
169 一切疑功德経云於一切法智無礙滯者一切法謂自相共相法智於
170 此法決定了知故無礙滯此亦是妙觀察智与前第十一所解無
171 別第十二入種々行功德経云於一切行成就大覺者一切行者五乘
172 性行隨彼有情所可化宜為欲成就令其大能覺悟五乘本性故
173 現聞・類身令彼入証第十三了達当来法主・妙智功德経云於諸法智
174 無有疑惑者下論釈中出過声聞等境微細善種如瓦石中細
175 金種子解経中於諸法字謂衆生身中有無始三乘諸法善種
176 如瓦石中有微細金種子如是等境無顛倒相皆遍知故者釈
177 経無有疑惑謂如來智於此微細三乘諸法善種等境皆遍、
178 了知無有疑惑声聞之智於此微細三乘種境有知不知仏皆

【第七紙】

179 了知故言出過而功德云了達当来法生如智者此拋知種当
180 来成熟遠近智皆了知声聞於善種雖復能知当来文・遠八万劫外
181 方熟則所不知仏皆了知故言出過前第十三明如來智於疑惑有情
182 隨心教海・今此明智知三乘善種当熟遠近無有疑惑有此差別
183 第十四隨其勝解如応示現功德経云凡所現身不可分別者下論、
184 釈中有四初明世尊凡所現身雖無功用分別自然現種々他受用身
185 及化身如未尼珠雖無功用作意分別隨有青黃赤白等色与之相、
186 応則現其色而珠無分別故言凡所現身不可分別二由諸如來下由
187 諸如來成所作智及大円鏡智他受用身及變化身為本性相作増
188 上縁力又由衆生自意識勝解之力於識見分之上有如來身金色等相
189 分顯現隨其勝解所見不聞・故言凡所現身不可分別三然諸如來下双
190 結前二無分別然諸如來無有分別結初雖無分別如未尼珠無異分
191 別結後増上縁力無異分別謂如來但現一身作増上縁力無異分別然
192 令衆生見金銀等種々身四或聞・彼類不可分別者或凡所
193 現身・彼所化有情形類能化所化不可分別故言凡所現身不可分
194 別前第十四明如來身非是雜染分別所起故言凡所現身不可分別
195 今明如來無功用分別如未尼珠故言凡所現身不可分別第十五調
196 伏方便功德経云一切菩薩正所求智者下論釈中有二初正解経
197 文兼釈功德二此由如來下釈智能調伏方法初言由無量菩薩
198 所依者謂如來利他之智由為無量菩薩之所依求即此菩薩所

199 依求智能為一切有情作調伏方便二此由下謂此調伏有情方便
 200 由如來利他智作增上緣力衆生耳意之識有文義相現名得聞
 201 正法依法起・起思・依思起修次第獲得利他妙智異類根熟菩薩
 202 即便撰受異類根末・熟菩薩即便付属由得此利他妙智故能展
 203 轉相統無間而轉若燃無尽灯也・与前第十五文義相似上來六
 204 德明他受用及變化身訖次一明法身第十六平等法身六到彼岸
 205 最極成滿功德經云得仏無二住勝彼岸者下論釈中謂於仏地
 206 無二法身解経仏無二住法身真如為体於一切二相分別皆不現
 207 行故名無二住由施等六到彼岸円満証得故言得勝彼岸与前第
 208 十六無異第十七随其勝解示現無雜清淨仏土功德經云不相

【第八紙】

209 問難如來解脫妙智究竟者下論釈中謂如來以解脫妙智觀諸有
 210 情勝解樂欲差別不聞・示現種々金等仏土一々仏土雖遍世界
 211 然其体相不相間雜此中明受用身而言随他受用土者意顯、
 212 如來解脫妙智既能現不相間雜土亦能現不相間雜身其
 213 不相間雜身前後次已解訖今此但明不相間雜土当知彼此身
 214 土皆得身有也皆通自他受用 第十八言三身方処無有分限功
 215 德経云証無中辺仏地平等者下論釈中謂証平等無初中後諸
 216 仏三身於其仏地也謂証平等釈経中平等字証無初中後諸仏
 217 三身釈経中証無中辺字於其仏地釈経中仏地字仏淨土下釈

218 功德中三身方処無有分限謂仏於淨土中所有三身無有一切方
 219 処分限也問法身及自受用身於仏淨土中可得無有一切方処分
 220 限他受用身及變化身既隨機而現有無不定何得乃言三身
 221 於仏淨土中無有一切方処分限答此拠於一切方処常相統化無
 222 有分限也又問化身唯応在穢土何故此中亦言在淨土答祇此文
 223 当知化身通在淨穢土如当來弥勒仏所居淨土即其事也前
 224 第十八明真如平等無有中辺即唯明法身今此通弁三身第
 225 十九窮生死際常現起作利益安樂功德此明受用變化二身經
 226 云極於法界者下論釈中注界即是如來法身謂此法界善清
 227 淨故窮生死際常從此界常起等流無分別智從無分別智
 228 流得智從後得智起大悲流十二分契経等法為当來有情応
 229 時恒起利益安樂前第十九弁注界唯取能証法界修果今
 230 此中取法界所流以明常起作利有情二義無別故第二十及第二十一
 231 無究竟竟功德文中有六一牒経本二立功德名三解釈四問
 232 答分別五由仏功德無究竟是故成最清淨覺結別成総
 233 六其余諸句下以後例前就第三解釈中有二初釈第二十句経
 234 尽虚空性明自受用身二如未來下釈第二十一句経窮未來
 235 証明他受用身及變化身然此二句文経唯有喩論師皆約
 236 法以合如文可解就第四問答分別中有六一問二答三難四通五
 237 釈伏難六結答上問初問中有二諸仏功德為湛然常無尽

238 究竟為相統常無尽究竟第二答中有二初總答兩問不可定說二以仏

【第九紙】

239 下別答兩問顯不定相初明法身理性功德其体湛然無尽究竟

240 正答初問二受用變化雖性無常相統不斷無尽究竟以答後問第

241 三一切下對於後答而設於難々云諸仏在因発弘誓願為度衆生求

242 大菩提若諸仏各度有情尽得滅度仏有為德何不不斷滅第四通中

243 有六一挙宗略答二所以者下立理釈答三如余経下引説証答四前四

244 種下釈経成答五雖余経下通難顯答六由此道理下理円結答就初挙

245 宗略答々意云諸仏本為度衆生故求大菩提諸有情界無有一切滅度

246 之時故仏功德亦無斷滅第二立理釈答中有二初総釈略答所以有情無

247 尽度時者何由法爾道理故二無始下挙数広答具列五姓如文可解

248 三如余経下引説証答一声聞定種姓二独覺定種姓者如維摩経文

249 殊師利云若見無為入正位者不能復発阿耨多羅三藐三菩提心

250 又如殖種於空終不得生如是入無為正位者不生仏法又迦葉云

251 我等今者不復堪任発阿耨多羅三藐三菩提心譬如根敗之士其

252 於五欲不能復利正使声聞終身聞仏法力無畏等永不能発無

253 上道意又法華経云比々丘々尼自謂已得阿羅漢是最後身究竟涅槃

254 便不復志求阿耨多羅三藐三菩提又楞伽経云衆生若成就第

255 一義寂滅声聞性人一切諸仏尽力教化不能令其坐於道場得阿耨

256 多羅三藐三菩提三如来定種性者善戒経種性品云是種性人有種

257 性故若能発心勤行精進是人疾得阿耨多羅三藐三菩提四三乘

258 不定種姓者涅槃経云有諸衆生若遇諸仏菩薩為説正法則得阿

259 耨菩提若不遇諸仏菩薩為説正法則不能得謂声聞縁覺如彼

260 病人不定寿者就此不定種性中自有其四一具有三乘所有種姓二有

261 如来独覺種姓無声聞姓三有如来声聞種姓無独覺姓四有独覺

262 声聞種姓無如来姓如是四人前三或具三姓或具二姓雖先証劣果

263 終能起勝故名不定第四不定種姓雖具中下兩姓以無始来性故

264 畢竟不証無上菩提自於兩乘相望互自不定具以声聞種姓望独覺

265 種姓独覺種姓有二種一独出辟支二衆出辟支若以声聞熾頂忍

266 三善根望独出辟支必無廻此声聞熾頂忍向独出辟支以彼独

267 出辟支從不淨觀乃至尽無生智^四一坐得故若以声聞熾頂忍三善

268 根廻向衆出辟支此有得義故俱舍論云從声聞性三善根得異正

【第十紙】

269 覺二以辟支望声々聞々有二種一種性声聞二縁覺声聞若衆出、

270 辟支在熾頂二位亦得轉為声聞種性故俱舍論云独覺種性於

271 此二位轉作声聞不遮此義若独出辟支必不可轉以一坐得故五無

272 有出世功德種姓者善戒経種性品云無種性人雖復発心勤行精

273 進終不能得無上菩提又成熟品云無種姓者但以人天善法而成熟之

274 莊嚴論云無姓有二一暫時無般涅槃法二畢竟無般涅槃法暫

275 時無涅槃法有四一者一向行惡行二者斷諸善法三者無解脫分善

276 根四者善少因不具足畢竟無涅槃法者無因故無般涅槃性謂但
 277 求生死不求般涅槃又楞伽經云有五無間種姓一声聞乘無間
 278 種姓若聞說陰界入自相斷拳身毛豎熙怡忻悅乃至如實知
 279 修習人無我得般涅槃是名声聞乘無間種姓二緣覺乘無間
 280 種姓聞說諸緣拳身毛豎悲泣流淚而能隨入証緣覺果是名緣覺乘
 281 無間種姓三如来乘無間種姓若聞不思議境界之時心不驚怖
 282 是名如来乘無間種姓四不定乘無間種姓者謂說彼三種乘時
 283 隨說而入隨彼乘而成是名不定乘種姓五一闍提無間種姓此有二
 284 種一捨一切善根闍提謂謗菩薩藏言此非隨順修多羅等三藏
 285 之說由此謗故捨諸善根捨善根故不般涅槃二菩薩一闍提知一切法
 286 本來寂靜自般涅槃畢竟不更般於涅槃是名不捨一切善根一闍
 287 提也又瑜伽論上下亦明五種姓一声々聞々地云々何定種姓者声聞
 288 種姓謂住種姓補特伽羅有種子法由現有故若遇勝緣便有堪
 289 任有勢力於其涅槃能得能証二獨覺乘定種姓者獨覺地云獨
 290 覺種姓有三一本姓獨覺先未証菩提時有薄塵種姓由此因緣於憤
 291 鬧處心不受樂於寂靜處深心愛樂二者本性獨覺先未証菩提時
 292 有薄悲種姓由是因緣於說法利有情事心不愛樂於少思務寂
 293 靜住中深心愛樂三者本性獨覺先未証菩提時有中根種姓是
 294 慢行類由是因緣深心怖願無師敵而証菩提三如来定種姓者
 295 菩薩地云本姓住種姓者謂諸菩薩六殊勝有如是相從無始世

296 展轉傳來法爾所得是名本姓住種姓若諸菩薩成就種姓尚、
 297 遇一切声聞獨覺何況其余一切有情當知種姓無上最勝四不定
 298 種姓者決折分云言不定種姓者問廻向菩提声聞為住無余依
 299 涅槃界中能發趣阿耨多羅三藐三菩提耶為住有余依涅槃
 300 界耶答唯有余依涅槃界中可有事所以者何以無余涅槃界
 【第十一紙】
 301 中遠離一切發起事業一切功用皆悉止息故五無種性人者菩薩地
 302 云無種性補特伽羅無種姓故雖有發心及行加行為所依止定
 303 不堪任円滿無上正等菩提又意地云此一切種子識若有般涅
 304 槃法者一切種子皆悉具足若無般涅槃法者便闕三種菩提種
 305 子 第四前四種下釈経成答文中有二初明前四種姓究竟終有得
 306 減度期二第五下明第五種姓以無三乘種姓故畢竟不得減度諸
 307 仏雖化得生人天還復退墮三塗即涅槃経若遇善友諸仏菩
 308 薩聞說妙法亦不發阿耨多羅三藐三菩提心若其不遇亦
 309 不能發謂一闍提如彼病人必定死者第五雖余経下通難顯
 310 答文中有二初外人引経為難二然就真如下論主釈通謂有難
 311 言若有第五無出世性功德衆生及不畢竟得減度者何故涅槃
 312 経說一切有情之類皆有仏性法華経云我不輕汝々等皆行菩
 313 薩道當得作仏二明論主釈通云経言一切有情之類皆有仏性者
 314 性者体也此就諸仏真如法身仏体遍在衆生身中故言一切衆生皆有仏

315 性非捩方便修生受用仏性也故宝性論云有三種義是故如來說一切衆
 316 生有如來藏一者如來法身遍在一切諸衆生身二者如來真如無有差
 317 別三者一切衆生皆悉實有真如仏性故又涅槃經云一闍提名斷無、
 318 常善以無常善不具足故名一闍提仏性は常故不可斷以不可斷
 319 故說一切衆生悉有仏性唯此而談言一切有姓者一切皆有諸仏真如
 320 法身仏姓前言無出世功德姓者自謂無常受用身仏因姓也又仏
 321 性論云仏性者是人法德姓者自謂無常受用身仏因姓也又仏性
 322 論云仏性者是人法二空所顯真如既言二空所顯明非隱時法華經
 323 云常不輕菩薩遠見四衆高聲唱言我不輕汝々等皆行菩薩道
 324 當得作仏者夫言四衆即在家出家受戒之流此等之人既入仏法
 325 定有三乘種性為是不輕菩薩欲令決定有如來種姓者專修菩
 326 提不定種姓四衆廻心向大故言汝等皆行菩薩道當得作仏
 327 也宝性論云問曰余修多羅皆說一切空中何故說一切有真如
 328 仏性答曰以有怯弱心輕慢諸衆生執着虛妄法謗真如仏姓計
 329 身有神我為令如是等遠離下劣心等五種過失故說有仏々
 330 姓々論亦云問曰何因緣說於仏姓答曰如來為除五種過失生五功
 331 德故說一切衆生悉有仏姓除五過失者一下劣心二慢下品人三虛妄
 【第十二紙】
 332 執四誹謗真実法五令離我執五功德者一起正勤二生恭敬三生般
 333 若四生闍那五生大悲或就少分一切有情方便而說非是一切一切此捩

334 行性故非一切衆生悉有故涅槃經云若言一切衆生皆有仏性は人名
 335 謗仏法僧以無般涅槃法無行性故若是理性言一切有豈得為
 336 謗若言一切衆生皆無仏性は人亦名謗仏僧法以有如來定種
 337 性人及不定種姓有行故又法花經云以我此物給一国猶尚不遣何
 338 況諸子當知一国之言喻一切衆生何況諸子之言唯取有仏性終能
 339 紹仏位者以為仏子然下合喻文乃言一切衆生皆是吾子當知
 340 此一切之言即是少分一切如經言一切皆無常一切皆苦豈可執此言謂
 341 涅槃亦無常苦耶當知一切之言俱是方便就實有如來行種姓
 342 為言也作方便言者為令不定種姓有情聞皆有性信正自有決
 343 定速趣無上菩提問若言一切是少分一切者何故涅槃經云凡
 344 有心者皆有仏性答此言心者即是真如是諸法實体是故名心
 345 故仏地經云如來清淨法界雖遍一切衆生心性由真実故不相
 346 捨離仏地論釈云如仏自心真実清淨本性光潔本性淨故
 347 故一切衆生心性亦爾本性真実本性清淨心本性者即是真如
 348 一切衆生心平等性也涅槃經意云凡有真如之心者皆有清淨法
 349 身性非謂凡有之為心皆有為無漏作仏性也第六由此道理下
 350 理円結答其文可解第五此利他下釈伏難此中伏難之云若利他
 351 德由所化衆生不尽滅度可使無有斷尽其自利德不由化生何不
 352 斷尽故今答云此利他德依自利德乃得無斷若自利德斷尽則
 353 利他德無所依亦必斷尽為是義故二德俱無斷尽第六是故如

354 来下結答上問如文可解第五由仏功徳下結別成総第六其余諸
 355 句下以後例前謂如無究竟功德成最清淨竟当知余十
 356 九句一弁訖皆応如是以其別句配属最清淨竟之総句也第一功
 357 徳以前例後今此二十及二十一・徳以後例前中間唯・可知也上来大
 358 段第四牒経解釈訖自下大段第五何故先説下会通仏土後説仏
 359 徳意文中有二先問後答問文可解答有兩句一為顯如是諸
 360 仏円徳必当依於円満淨土方能宣説此契経故上来雖有五
 361 段合是大段第五明起教処訖 自下大段第六明教所被機然教

【第十三紙】

362 所被機々有二種謂声聞菩薩即論其文経論交參是故今、
 363 時還経論合科文開五段第一経前生起第二広列声聞眷属円
 364 満経文第三牒経解釈第四広列菩薩眷属円満経文第五牒
 365 経解釈就第一経前生起中有七第一顯仏眷属円満第二謂大声
 366 聞下出眷属体第三余経中下引説証眷属相第四此説下挙
 367 此聞余弁相無異第五何故此中下明二衆先後所以第六於此
 368 会下明略不説天人等衆第七前説淨土問答分別前二可
 369 解就第三中言調々順々而為眷属者謂如来調順故得調順声
 370 聞而為眷属如来解脫故得解脫菩薩而為眷属亦即如
 371 涅槃経云如・檀林・檀園遶如師子王師子園遶第四中其
 372 文有三初列二衆二一切調順下挙経文顯二衆眷属相三如其

373 次第下結是二衆眷属円満第五明二衆先後中有二初責
 374 何故先説声聞後談菩薩二為於大乘下広答所以文中有七
 375 一為除声聞疑故有諸声聞疑於大乘非真仏説不能現今
 376 捨凡成聖聞我乘故今先列声聞親於仏辺聞説大乘顯
 377 彼大乘真仏説故二為引不定種性二乘生定信故有諸二乘
 378 具如来種姓為欲引彼令趣大乘令此声聞並無学果各
 379 知自乘非究竟故尚在衆首親稟大教令不定姓專信大故三為捨
 380 声聞尊貴慢故有諸声聞自謂与仏聞・証解脫最為究竟今
 381 列大声聞近対世尊親受仏化故知無学未為究竟四声聞之
 382 衆常随仏故因明仏後随近先列五声聞之人形聞・仏故六声聞之人
 383 内眷属故不聞・菩薩外有妻子為眷属故七為令菩薩敬声聞故
 384 文中有三一・直勸菩薩敬於声聞二如契経下引説証成三由是讚歎
 385 下釈成敬意菩薩之人或俗和光化物不聞・声聞捨家聞・仏故勤
 386 菩薩恭敬声聞列余在家於声聞衆生淨信故第六明略不列天人
 387 等衆所以此応有責言如余説会具有天人聞・時聽聞今説此経何
 388 独無也此下答々中有二一謂此会中亦有余衆結集法者略説二衆以其
 389 勝故二引下経証有余衆第七聞・答分別中有四初明外人作相達難
 390 前説淨土是仏最極自在第八淨識為其体相即是如来自受用土
 391 諸大菩薩尚不能見云何会中有声聞等諸余雜衆而不与彼

【第十四紙】

392 淨土論二乘種不生言相違二有何相違者論師反責三諸聲聞下外
 393 人重難諸聲聞等聞大菩薩見受用土故成相違四若聲聞下對問
 394 廣解文中有二初反向外人謂若聲聞等亦聞菩薩如是見淨可作、
 395 是說言見相違二諸聲聞下廣明聲聞見異菩薩文中有三初明聲聞
 396 自力見穢二或復如來下以仏力加暫得見淨三化亦無過下明聲聞等
 397 衆皆是化作雖居淨土亦無相違就初自力見穢中有三初直明自力
 398 見穢先法後喻二不可難言下釈難成見先舉外難後釈成聲聞
 399 等所見三雖聞一会下明由業力二衆見殊先明由業見殊後借兩事
 400 對顯第二以仏力加暫得見淨聞說妙法文中先明力加見淨後勸不
 401 応以根地度難謂此雖聲聞由是如來不思議神力加被遂能見淨土
 402 聞妙法不応難言聲聞下根不応得見如來上根土境及聞妙法又不応
 403 以依上靜慮地所作變化非下靜慮地所見聞以如來神力加於
 404 非情尚能種々作況聲聞等而当不能見淨土聞妙法第三明聲聞
 405 衆等皆是化作先明化意後弁能化之主即仏菩薩上來一經前生
 406 起訖自下第二広列声聞眷属円満経文向下論文別牒釈記
 407 ■煩碎難以上心今略総相於其經中略作三重共相影顯以成其義前
 408 兩番其文各五第三番其文有四言初番五句略難徳第一総挙無
 409 數声聞之後四句即是經中身戒心恵二言一切調順下即是身等三
 410 業調順余心恵戒具如文列第二番五句広難徳初言趣求法衆乃至
 411 積集広上声聞二善思所思乃至所作此彰三業和善広上調順皆

412 是仏子三捷恵速恵乃至具足三明広上恵善解脫還得第一現法衆
 413 住即是四靜慮広上心善解脫五大淨福田広上戒善清淨第三番其
 414 文有四從後向前次第結成前之兩番威儀寂靜近成第五淨福田相
 415 遠結戒善清淨二大忍成就忍即智也近結捷恵至三明遠結恵善解
 416 脫三柔和無滅謂心柔和不為愛憎所滅近結現法衆住遠結心
 417 善解脫四已善奉行如來聖教此由三業調善故能敬行聖教近結
 418 善思所思等遠結声聞乃調順等上來第二広列声聞眷属円
 419 満経文訖自下第三牒経解釈文中依前所科三番文即為三就第一
 420 番中文有五句解釈五句文即為五先解第一与無量大声聞衆俱
 421 釈文有四第一解無量第二聞仏音下解声聞第三並出家下解衆
 【第十五紙】
 422 第四一切皆是下解大就解大中有四初是根大二是果大三是種性大
 423 四是數大以到利根岸故大波羅蜜多唐言到彼岸謂此等声聞
 424 皆是最極利根到彼岸種姓声聞二有義下以住無學果故大三如
 425 實義下皆不定姓廻向趣求大菩提故大四或衆數多故大自下第二
 426 解一切調順皆是仏子文中有二初解一切調順二由仏教力下解皆是仏
 427 子初解調順中有三一有學離見煩惱故名調順先法後喻二有義下
 428 無學離見修斷故名調順亦先法後喻三如實義下不定種性捨小
 429 趣大故名調順亦先法後喻 自下第二解皆是仏子其文有二一從仏
 430 教力聖道得生故名仏子先弁後引說証成如法華等云從仏口生從

431 法化生二有義下皆趣大声聞終紹仏不斷故名仏子自下第三解心善
 432 解脫謂離三界貪心得解脫如說下引說証成自下第四解惠善解脫
 433 謂已離一切染汚無明惠善解脫如說下引說証成自下第五解戒善
 434 清淨文中有三初明具足六支名戒善淨言六支者一住淨尸羅瑜伽
 435 名為安住具戒謂於所受學處身業語業無穿名安住具戒二善自
 436 防守別解脫律儀瑜伽云謂能守護七衆所受別解脫律儀今此義
 437 中唯依苾芻律儀處說差能守護別解脫律儀三軌則具足瑜伽云
 438 軌則円満謂於威儀路或所作事或善品加行處所成就軌則隨順
 439 世間不越世間隨順毘奈耶不越毘奈耶云何名為威儀路成就軌
 440 則隨順世間乃至不越毘奈耶謂於所應行即於此中如是而行不為
 441 世間之所譏毀不為賢良善士諸持律者之所呵責如行既然於住坐臥
 442 亦爾云何名為所作事成就軌則乃至不越毘奈耶謂於所作若
 443 衣服事或盥鉢事等諸所應作即如是作不為世間譏毀乃至持律
 444 之所呵責云何名為諸善品加行處所成就軌則隨順世間乃至不
 445 越毘奈耶謂受持誦誦修敬師告宣白請問繫念思惟如是種々善品
 446 加行如所應作即如是作不為世間譏毀乃至持律之所呵責應知說名規
 447 則円満四所行具足瑜伽云所行円満謂於五種非所行處一唱令家二
 448 姪女家三酤酒家四国王家五旃茶羅羯那^レ耽家能善遠離無罪行處
 449 知時而行名為所行円満五於微細罪見大怖畏瑜伽云於微小罪見見
 450 見大怖畏謂於小随小学處若有所犯可令還淨名微小罪或於諸字

451 處現行毀犯說名為罪既毀犯已少用功力而得還淨說名微小故名微小
 【第十六紙】
 452 罪言見大怖畏者謂因此毀犯不能得所未得觸所未觸証所未証往諸惡
 453 趣為諸大師有智梵行以法師責惡名惡称遐邇流布彼於如是見大怖畏
 乃
 454 至命難亦不故犯六受學々處謂於先白四羯磨受別解脫戒時從戒師
 455 所得聞少分學處體性復從親教軌範師處得聞所余別解脫經總
 456 略宣說及從所余聞所學處一切自誓皆當修學名為受學々處此之六支
 457 世尊顯示有三種相初安住具戒顯示尸羅律儀無失壞相能善守護別解
 458 脫律儀顯示尸羅律儀自性相軌則所行皆悉円満顯示別解脫律儀
 459 如其所受觀他增上自性功德相謂由軌則所行円満令他觀見生於淨
 460 信心無厭惡言不譏毀作增上緣生他功德故於微小罪見大怖畏受學
 461 々處顯示別解脫律儀如其所受觀自增上自性功德相謂於微小罪見大
 462 怖畏於受學々處能正修學為增上緣當生善趣能得未得所有功德
 463 故後之四支雖生自地功德有異同是自性功德相也又此六支世尊顯
 464 示三種戒性謂初安住具戒顯示受持戒性能善守護別解脫律儀
 465 顯示出離戒性以此律儀所損淨戒名增上戒學由依此戒修增上
 466 心增上惠能得苦尽竟出離故後之四支顯示修習戒性以修習別
 467 解律儀名善修習故二戒復皆得下明下得無漏戒故名善淨三如實
 468 義下自分戒淨修菩薩戒故名善淨上來初番解前五句訖自下第二

469 番重成前五第一解趣求法樂多聞々持其聞積集成上声聞句
470 解此四句文即為四初解趣求法樂文中有三一求法之時為自趣求仏
471 菩提樂故名趣求法樂二求法之時為令他樂無求法過之意離輕法
472 師威儀故名趣求法樂三專求法樂不為名利故名趣求法樂第二無
473 量經典下次解多聞三隨所聞下次解聞持四數習文義下解其聞積
474 集自下第二解善思所思善說所說善作所作成上一切調順皆是仏子文
475 中有二初拳凡愚惡思三業不隨智行乃顯調順惡思是意惡說是語
476 惡作是身二出世聖下明聖智善思三業隨智惠行順顯調順自下第三解
477 捷惠速惠等成上惠善解脫此中凡有十惠文即為十一能尋仏教速悟其
478 義故名捷惠二聞尋前教多悟其義故名速惠能多行下積成速義
479 三固尋前教悟微細義故名利惠前三惠即是世俗聞思修三惠四
480 能出離生死名為出惠即是見道無漏惠斷三界見或尽不能發生
481 死業故名出離生死五解勝決決惠文中有四初約境并惠修道無、
【第十七紙】
482 漏惠能与涅槃為了因名勝決決惠二勝決決故名勝決決惠者勝
483 即涅槃滅諦決決即是無漏聖道緣涅槃滅諦之惠勝緣道諦
484 之惠故名勝決決惠三出勝体即是涅槃四明惠能与涅槃作了
485 因從因為名故名決決故言依彼立名六問答下解大惠謂無學道惠所
486 証寬広問答決決無有窮尽故名大惠七人無我所顯之理周遍無窮
487 名為深広円満惠能通達此境名為広惠依於梵本經有別伝云

488 本此中加一甚深妙惠此惠所証法無我所顯真如甚深微妙下根下
489 住不能窮其底唯廻向智能証此甚深妙境故名甚深妙惠八於要根
490 等廻向声聞中此惠勝故名無等惠此惠對下為名九解惠宝成就最
491 上義者謂是涅槃々能具無漏諸德名之為宝此惠能招最上義、
492 宝名為惠宝是諸声聞因此惠故終能成就涅槃之寶為是名為
493 惠宝成就十解具足三明明文中有四初約人并得二云何下答問顯名三無
494 學
495 利根下對障彰明義四有義下正出明体々有兩種一約別境惠數以出
496 体二有義下約善中無痴善數以出体自下第四解速得第一現法樂
497 住成前心善解脫文言証得不退勝靜慮者謂得不退四勝靜慮
498 也自下第五解大淨福田成前戒善清淨由戒淨故能永離煩惱如
499 世良田速生大果自下第三番有四句重成前兩番十義第一言威儀
500 寂靜者近成大淨福田遠成戒善清淨凡現威儀皆正智住所
501 以戒善清淨為世福田第二第三兩句合解大忍成就近成十種
502 智惠遠成惠善解勝忍者智也忍是智眷屬故由大忍成就所以
503 於苦堪耐達境無相故惠善解脫柔和無威者近成現法樂住遠成心
504 善解脫由内心柔和於善於惡不生憎滅既易共住所以速証勝定遂令
505 心善解脫自下第四解已善奉行如來聖教者近成趣求法樂等遠成無
506 量声聞就此文中有五第一正釈經文第二若爾下問答分別第三故
論說言下引瑜伽論為証第四復次廻向菩提下論主約有學無學

507 廻菩提資伏不聞第若說声聞是化所作不須如是問答分別就第
508 一正釈経文中有二初略解謂諸声聞依教所作以証円滿極果故言
509 以善奉行如來聖教二広釈謂如來所立聖教本為有情令出生死
510 是諸声聞依教奉行俱登無學齊出生死故言以善奉行如來聖教
511 自下第二問答分別文有十一々問二答三難四通五微六解七責八辨

【第十八紙】

512 九訶十釈十一因論生論初問云若如來立教本為有情得出生死是
513 諸声聞既皆生出死俱登無學何故今時復為宣說此仏地法第二答
514 云是諸声聞雖出分段証于小果今為說此経令其廻向大菩提故第
515 三難云是諸声聞皆住無學尽此一報必入永滅無余涅槃寂靜安樂
516 与仏無異如余瑜伽論說何故復引趣大菩提長時受苦第四通云
517 變易位中無諸苦受斯有何等受苦之過第五微云變易位中雖
518 無苦々懷苦仍有行苦是為大過第六解云雖経此苦令得三身有大
519 喜樂故無有過第七責云一切大樂不過涅槃彼正証得復何所少更求
520 菩提第八弁云樂有五種涅槃雖有寂滅一樂而無四樂及諸功德言四樂
521 者第一受樂以受數為体二三菩提樂以惠為体三斷受樂以滅定
522 為体等謂等取苦對治樂以身心安穩無病苦等為体無余涅槃無
523 此等樂故說此経勸求菩提第九訶中執小訶大如経部師道諦亦有行苦
524 提即是道諦所撰故今訶云何用行苦有為菩提所有樂邪第十釈
苦

525 中其文有二初拏大小依大乘有為無漏非是行苦故今釈云有為無漏
526 猶如涅槃是無漏故非行苦撰二又証菩提成仏之時能化有情出生
527 死苦由此多益勸求菩提第十一因論生論文中有四一結二報三窮四演
528 就第一結中若使為声聞說法令捨涅槃趣仏菩提欲令成仏化諸有
529 情出生死者十方世界已成仏者豈無如此化衆生能要須化彼声聞
530 令其成仏方化生邪第二報云無始時來衆生法爾能化所化種性相
531 属不相属者即無化能十方世界雖有多仏各化相属其不相属要
532 待後成仏者方受其化是故如來種々方便令得仏果化彼所化第三窮
533 云意云是等声聞一切生悉得非釈滅唯有此一身依何道理令此一身得
534 経三無數劫修菩提因得作仏耶文中先汎約預流等明得非釈滅多
535 少故云若使有諸有情要待声聞成仏方始受化者預流果人除七生外
536 余一切生得非釈滅一來果人除一生外余一切生得非釈滅上流那含除
537 上界処々一生余一切生得非釈滅現般預流人及阿羅漢人於一切生得
538 非

539 釈滅如來說法本欲令生早出死此等諸人或余七生或全無生々既已尽
540 云何復得更令此人捨少生死経三無數劫長時受苦修菩提因方得仏
541 邪第四演中其文有三初総答前窮第二非釈滅下釈通伏難初
542 総答云是諸声聞雖於煩惱所閏分段末廻心時得非釈滅発心已後由
【第十九紙】
定願力引令重起受變易生雖復於経三無數劫修菩提因而變

易生中無有受苦如分段之過失二非泯滅下釈通伏々難々展転有両
543 難両通初難云已得非泯滅生既其畢竟不生如何願力令更有受生
544 故今通云言非泯滅者直掬當時衆縁不具於此時中仮説畢竟不受
545 生也然宝・非泯滅生非永不生若其廻心向大以定願力而更資熏即更
546 長時而生也第二重伏難云若非泯滅生更受生者所得非泯滅生具
547 通六道若更經三阿僧祇受六道生方得菩提修道便退以故今通
548 云由定願力資彼現所感身名言異熟無記種子令引受一變易身
549 使其功能經三無數劫多時生果即此一身展転増勝最々乃至成仏如
550 諸羅漢問・神通力退寿命法非更受生如彼分段而有諸苦此現身
551 因応与現縁聞・感当来無量身果由現聖道力得非泯滅今發心後
552 以定願力資受一變易果一因感多身果如阿尼樓駄施裸子飯是也上
553 来第二問答分別訖自下第三引瑜伽論為証文中有五一問二答三難四
554 通五釈伏難第一彼論問云廻向菩提聲聞為住無余依涅槃趣求菩
555 提為住有余依涅槃趣求菩提第二彼論答云唯住有余依涅槃可有此廻
556 向菩提事所以者何以無余依涅槃中遠離一切事業功用皆悉息更
557 無廻向菩提之義第三彼論難云論文言問者此是難問也若唯住有
558 余涅槃發趣菩提者云何但由一生便能証得無上菩提此言一生者但是
559 一
560 生之身非謂住来一生也所以者何下釈顯唯一生所以々阿羅漢等尚無
561 所余一生何況当有多生相統言無所余一生者謂無一生之余也第四彼

論通
562 中有三第一当難真・通々云由彼要当以定願力資熏此身名言異熟種子
563 令
564 彼種子増諸寿行々即因也今於寿果經三無數劫方能成弁正等菩提第
565 二
566 世尊下弥勒菩薩引経為証世尊多分依此廻向菩提聲聞密意説言若有
567 善
568 修四神足已能住一劫或余一劫世尊多分依此廻向菩提聲聞密意・言
569 者
570 此是弥勒菩薩生起下経文意謂此経文但言修四神足不分明言廻向菩
571 提
572 聲聞論仏実意言多分為此廻向人説故言密意其中亦有不廻向声聞
573 修此神足住寿或経劫等故言多分若有善修乃至或余一劫此正是所引
574 経文然
575 此旧経多云善修神足住世一劫或減一切・翻訳者誤也然梵本云能住一
576 劫或余
577 一劫旧翻訳者既見一劫之後言余一劫遂謂余一劫之言但是半劫故為
578 謬翻也
579 第三一劫者下弥勒菩薩釈通弥勒菩薩既見余一劫之言相隱故即釈云
580 余

572 一劫者此中意說過於一劫乃至三無數劫留身而住故名余一劫也自下

第五釈

【第二十紙】

573 通々伏々難々有四第一伏難云真來菩薩未斷煩惱可經三無數劫廻向
574 声聞

既斷見修惑尽生死之中唯此一身在何事近此少分生死更經三無數劫
575 方取

菩提何不住報早成正覺故今通云障有二種一是煩惱二是所知彼雖先
576 斷煩

惱障訖余所知障未除為除所知障故更須增益壽行經三無數劫發趣無
577 上正等菩提漸斷所知障良由先樂涅槃修行遲鈍斷所知障修利他

578 事不如初心始業菩薩為是義故要聞菩薩三無數劫修菩提行方即
579 円満為是義故不得住報早成菩提第二釈通伏々難々云現見諸阿羅

漢等皆焚此身入無余涅槃未見有留此身經多劫者何故乃言增益
580 壽行經三無數劫方得菩提故今通云彼廻向声聞既以定願增壽行已

581 留有根身別作化身聞修仏法者前方便示現入無余涅槃由是因縁諸
582 聞法者皆作念言其名尊者於無余依已般涅槃所以須現化身入滅者

583 凡有三意一為不還小教得有余已必入無余二示修道有果三為止凡小
584 等謗

585 謂是功化人忽然不現第三通伏々難々云彼廻向声聞若別作化身入

586 無余滅者則所留實身尚在何故聞法之者咸皆不見故今通云彼廻

587 向人以所留實身於此瞻部洲中隨其所樂或虛空或山間遠離聞法者

588 住一切諸天尚不能觀何況其餘聞法生等而能得見第四通伏々難々云

589 声聞本欲修於智慧教化衆生趣求菩提若以定願增益實身樂

590 遠離住則便常在於定云何遊化衆生供侍諸仏修習菩提聖道資

591 糧故今通云彼廻向声聞其於涅槃多樂住故遊行教化近親供養

592 諸仏菩薩修習菩提資糧聖道若放逸時諸仏菩薩數々覺悟被覺

593 悟已於所修行能不放逸上來第三引論為証訖自下第四約有學無

594 學廻向菩提資伏不聞文中第三第一明學無學發趣前後不聞第

595 二如是若在下明學無學有感無感資伏不聞第三諸用無漏下明二

596 種生死因有差別初中有二前明學無學棄捨小願前後不聞二由彼

597 下釈其所以謂根有利鈍性欲有遲速待縁有遠近自下第二明學無

598 學有感無感資伏不聞前明無學後明有學就無學中有二初

599 明無學向菩提由無惑故不須言伏直由無漏定願之力數々修習資

600 於過去感現身因業及名言異熟種子令於三無數劫長時生果相

601 続不斷漸々増勝乃至成仏此有漏業及名言二種々子功能方尽所

602 以不直言無漏定願資名言報種并言資業種者以有漏善惡業能

【第二十一紙】

603 引名言報無記種令其感報故名有報無漏定願不能直引無記名

604 言種子生無記報故是無報故瑜伽論云有漏善惡業是有報無漏

605 は無報二此報雖親下明此變易易報身雖親有漏業及名言二種有
606 漏因感然由無漏資助轉名不思議變易生死由無漏定願不思議
607 故無漏定願能斷生死又能引生死故名不思議非變易生死体
608 是不思議也然勝覺經云無漏業為因無明住地為緣感變易生
609 死者無漏業為因者即此無漏定願及有漏業為因也若無々漏資
610 重即是分段由無漏資重・轉成變易當知變易之体由無漏而生
611 是故說無漏為變易因也言無明為緣者由無明住地在變易生
612 死相續不斷金剛喻定生時無明住地滅變易即斷故說無明以
613 為生死緣也無明對定々願々引力強所以得因名無明引力
614 弱是故受緣稱若將無漏定願對名々言々種々親生變易報即是
615 因緣業種与定願并及無明皆增上緣上來明無学訖自下明有
616 学々有二種一明有學位廻向菩提如預流果人発趣大菩提已先住煩、
617 惱閨業滅生随惑勢力合感々々生々已於最後生不取涅槃便依
618 未至定伏三空已來修道諸煩惱結後依第四靜慮起辺際智定
619 資此最後感現身業名言二種之因漸々増勝如前道理乃至成仏
620 第二或廻心下明有學位如得預流果已即廻向菩提便依未至定伏
621 三空已來煩惱得四靜慮依第四靜慮起辺際智定資此身業及名言
622 種令此身果漸勝漸妙如前道理乃至成仏上來第二總明有学無学
623 資伏不聞・訖自下第三明二種生死因有差別諸用無漏資助有漏
624 業及名言種子非用煩惱資助者皆不思議變易身攝若是二乘廻

625 心向大此變易身通三無數劫若直來菩薩地前未得無漏唯受分
626 段身至初地已方得無漏若從初地乃至七地已來不以無漏伏惑還
627 用煩惱■業種及名言種感異熟果々々有期限其身龐穢皆分段身
628 攝若從初地乃至七地隨在何地以無漏定願資業及名言種即轉
629 分段異熟為變易身如前声聞廻心向大転・
630 分段身作變易果其義無異唯・前可知言變易者身果殊妙漸々
631 増勝念々不聞・變劣為勝以勝易劣故言變易上來第四明有学無
632 学廻向提菩資伏不聞・訖自下第五若說声聞是化所作不須如
【第二十二紙】
632 是問答分別上來大段第三牒経解釈訖自下第四広列菩薩
633 眷属円満経文々々中有三第一挙数標衆其所從第二皆住
634 大乘下歎諸菩薩德第三妙生菩薩而為上首者并対揚之
635 賓子細解釈如下論文自下第五牒経解釈文中有三第一
636 釈挙数標衆并其所從第二就德大下広釈歎德第三妙生
637 菩薩下釈前対揚之資然論文約三大以科略不摂経文
638 妙生以為上首又不摂後兩復次論文為此義故今別為此三
639 分若依初番解歎德中還取論中三大以釈初番第一弁数
640 大第二弁德大第三弁業大唯今経文先明無量後弁菩
641 薩然觀論文先明菩薩後解数大當知梵本菩薩在先無
642 量在後翻譯之家為順此方言所以先明無量後彰菩薩義
643 実無爽但論順梵本又以菩薩総名皆依德立総名之後必与

644 数連是故歎德数亦入中当知総名与数定不相離若不爾
 645 者必在俱来集後方歎其德今既俱集之前判数入德定
 646 知数与総名依如梵本必不相離矣為是義故今取数
 647 大於菩薩以前科経文一順梵本経意二合此方言施知
 648 其以也三大之中先解数大其文有三一解菩薩摩訶薩二
 649 何故讚說下解無量数三從諸仏土下解從諸仏土俱来集
 650 会就初解菩薩中有三初約能求所求以解菩々提唐稱為
 651 覺旧翻為道誤也然道之為名梵称末迦与菩提全別安可以末伽
 652 之道而■菩提之覺乎薩謂薩埵唐言有情旧翻為衆生亦誤
 653 也衆生之名梵云莫呼繕那与薩埵全別不可濫也然覺是所求之
 654 果有情是能求行人此通三乘下次解摩訶薩埵摩訶唐称
 655 大薩埵還翻有情前言覺即是所求之果有情即是能求行人三乘俱
 656 有所求之果能求行人名義無異今為簡於二乘能求所求之別故復称
 657 為大有情謂前求覺有情非聞三乘求覺有情乃是求大覺有情故
 658 言大有情也今此文中為存略故菩下提薩下告埵摩訶薩下亦不存
 659 埵是故但言菩薩摩訶薩也第二復次約境以釈菩提之覺是所求境
 660 薩埵有情是所為境行人縁此両境起自々利々他大願求大菩提利有情
 661 故願求菩提之覺是自利願々度薩埵有情是利他願故今前列自
 662 利々他大願於初後言求大菩提利有情故求大菩提成上自利大
 663 願利有情故成上利他大願也第三復次約就行人勇猛精進求大菩提以釈又薩埵者於梵義
 解当唐言勇猛謂行人精進勇猛求大菩提此通諸位下別

【第二十三紙】

664 解摩訶薩謂勇猛精進求大菩提地前地上雖凡聖有殊精進勇
 665 猛求大菩提厥義無別今簡去地前唯取地上故言大有情也当知地
 666 前猶是凡夫未可称大自下第二解経中無量数文中有四一問何故讚
 667 說菩薩功德二答々中有二初為捨声聞慢心故歎菩薩德二
 668 欲今一切於仏生信故歎菩薩德三於此讚說下生起菩薩別
 669 德成上総名既以三大名摩訶薩故知無量之數通指菩薩
 670 摩訶薩言四一者下出所釈德指当経文如文可解此中正解無
 671 量数因釈無數通解下経合為三大用以科文自下第三解從
 672 諸仏土俱来集会文中有五一牒経文第二弁所来集第三亦
 673 応有下彰所不集第四為欲対治下弁結集者意第五前声聞下対
 674 声聞弁差別就第四弁結集者意云為欲対治懈怠求聞法故
 675 等者此猶似法華云多宝仏塔尚為法来何況諸人不勤為法第五
 676 対前声聞弁差別中云前声聞衆不説来集在此方故者以声
 677 神通不能超大千之界是故所集唯在此方余文可解上来雖有三
 678 文弁数大訖即是第一挙数標準弁其所從自下第二弁德大即是、
 679 歎菩薩德此中有四番解十句経初番依二大以釈第二番依十地解
 680 第三番依十到彼岸第四依十大願等以弁於此四中先約二大以釈就
 681 二大中先明德大就德大中有二初勸知略説德大有九種二一精進
 682 大下列名解経約九大解経文即為九一々大解経中文多皆有三一列大

名

683 二學所解經三約大義以解經文初言精進大者用自利々他為体者中
684 一精進大是列大名二謂住大乘學所解經對三由精進下即約大義
685 用以解經乘者行也大乘之行即精進力是故今釈云由精進力安
686 住大乘此即會名顯義也拔濟有情令離生死及自発趣無上菩提
687 者并精進大行之力相也第二解因大謂以大乘法為因体初列大名
688 二謂由大乘法是學經對三即十地下以大釈經即十地等出所遊大乘
689 位以聞思修等出能遊大乘位謂以大乘法為因能生聞思修三
690 惠行用此三行於十地中地々漸次而遊進趣無上菩提第三解所縁大
691 用衆縁慈為体二謂於諸下學經文三即於一切下以大義釈經此中即
692 是衆生縁慈謂縁無染有情與其染故一切衆生是大慈所縁境然
693 修慈之時凡有七品至成之時自他怨親普皆平等以大慈等平

【第二十四紙】

694 等方便利益有情如慈既然余三無量亦爾是故稱等今摠修
695 慈成時故言平等第四解時大者用三無數劫分位時為体二謂離
696 諸分別及不分別種々分別此是衆經文三即於一切下以大釈經劫名
697 分別者梵云劫臘彼唐言分別時於有為法上隨其分位差別而仮建
698 立故言分別無為之法則不如是無有分位差別不可建立時名不分別
699 此二即是所縁境界種々分別者是能分別心縁分別不分別境故云種
700 々分別此中説意若有能分別心此是時劫此非時劫長時修行即有

701 厭倦諸菩薩等已於一切劫与非劫分別斷故々能長時修行無厭乃、
702 至三無數劫雖復時長猶如一念平等而転故撰大乘論云処夢
703 謂經年寤乃須臾・須臾・故時雖無量撰在一刹那其猶死於平者患
704 日之短苦於獄者厭日之長蓋分別有短長耳今亦如是以分別斷故於一
切時

705 由如一念平等而転第五解無染大文中有四一列大名二學經文謂摧諸
706 魔死三捨一切所撰受能伏魔怨者所撰受事即是色声香味
707 觸等五欲資具達五欲体空無所撰受故言已捨一切所撰受故能
708 伏魔怨四如説下引經証成文可解第六第七二大其文可解第八解
709 清淨大二學經文謂超五怖畏三即三業清淨下以大釈經即三業清淨
710 弁大体由三業清淨無怖因故出諸怖畏果四無犯戒等下重釈前
711 三業清淨無犯戒是惡趣畏因等者等取余四畏因諸惡趣等者
712 諸惡趣是惡趣果等者等余四畏果犯戒等是諸惡趣果等怖畏因也
713 五列五怖畏名六如是下弁離畏位地謂得初地清淨意樂地時已遠離
714 五怖畏果其五畏・因初地亦離其五畏・細因今第八地方離由離
715 五畏・細因故云超五怖畏第九解証得大其文有六二謂一向趣入不退
716 轉位是學經文三即得下以大釈經得者証也一切智者仏也第九地中
717 為諸仏所記別故名是地為一切智記別地今明九地菩薩得証一切智
718 記別地時一向不復退転四前七地下學下有退形上不退以此前七
719 地中正入真觀無有無功用猶有加行運転不起任運無功用道説

720 名為退五其余下拳上不退顯下有退其余諸地者謂八九十三地是
721 前七地之余也以此三地一入真觀永更不出不起加行心故言一向趣入

【第二十五紙】

722 不退轉地六以不退下牒勝以結上來第二解德大訖自下第三解業大
723 有四初双牒業大及經第二釈地名謂菩薩得此地能息一切有情内
724 外苦惱之所逼迫地位現前第三此地中下明能息所以由得慈悲所以
725 能爾四此二多作下牒慈悲作用結為業大上來第一番約二大別解諸
726 德訖自下約十地別解諸德約十地文即為十就初地中先牒經文二解
727 釈用初遍滿法界真如為所住大乘体無分別智能証為住就二地
728 中先牒經文二解釈遊者修也乘行也謂二地菩薩修行菩薩三聚淨
729 戒是即此三聚淨戒大乘法菩薩修行此三聚大乘法言故遊大乘法三聚戒者一
730 律儀戒二攝善法戒三攝有情戒広解如三聚淨戒章就第三地中
731 先牒經文解釈可能就第四地中先牒經文二解釈三有義下対異説
732 分別就第二解中有四初双牒能離所離二諸分別下別牒三分別々
733 出其体約体弁離以為立宗別解三分別文即為三初約見所断
734 分別文即為三初約見所断分別我見以為諸分別体初地入見道時已得
735 断離二約修所断俱生我見出不分別体於此第四地中正得伏離三即
736 此分別二種諸相応法名種々分別以隨見修之惑行解異故々名種々
737 分別三雖前下明立因雖前初地四地前後各離今拠最後尽处在於
738 四地是故総説言此地離自下第四挙兩種開法喩如第四定説離苦樂

739 者苦在欲界色界実無然苦与五識俱初静慮猶有所依三識故未説
740 離第二静慮五識俱無所以言第二静慮離苦第三静慮有樂今至
741 第四静慮実唯離樂而經中言第四静慮離苦樂者亦以尽処総説
742 以第四静慮絶四処故如第三果離五下分者如身見戒取疑見道時已
743 離貪瞋二結断欲界惑尽時離而言阿那含人離五下分結亦是尽処
744 総説其離今分別我見及俱生我見亦復如是実初地四地前後各
745 離亦以四地是総尽処故就尽総説其離自下第三対異説分別初
746 有一師説此第四地中第七識俱生煩惱一切遠離就第二師解中有五
747 初云此第四地第六識中俱生我見一切遠離非第七識此是立宗二以第
748 七地

749 來猶有微細煩惱現行故此是立因三広釈所以就釈所以中有三初挙
748 五根例破若無第七心無染依心不似五者謂若此第四地中無第七

【第二十六紙】

750 識第六意識心無聞時染汚依此第六意識心不似於五識有聞時所依
751 五根以五識起時要訖聞時根然後得起意識亦心如是無第七識為聞
752 時所依根心不得起二以後三地猶有起惑以破謂若此第四地第七
753 心細惑已因離者五六七三地六識中龜惑心不現行三即違下挙聖教
754 來責以瑜伽論拳解染密經説七地已來菩薩起六識煩惱現行故三又
755 如二乘下弁開法喩如二乘金剛喩定第七識惑与六識中最細煩惱一時
756 俱断云何此四地中先離第七微細煩惱後離六識龜煩惱耶四是故下

757 就宗・總結是此第四地中得無我智伏滅第六意識俱生我見令必不現
 758 起末・離第七識微細煩惱及六識中余修斷惑五此說伏下并伏斷
 759 位地不朋・初明此第四地俱是伏離非是永滅後第十地金剛心時方得
 760 頓斷六七識中修斷種子就解第五地中先牒經文二解釈謂此第五地觀
 761 四聖諦皆平等性摧伏凡夫執取生死差別魔怨障摧伏二乘執取涅槃
 762 住着涅槃着・別魔怨障就第六地中先牒經文二解々釈々中謂第六地菩
 763 薩觀十二緣起染淨平等遠離二乘厭患雜染苦繫念分別及遠離二
 764 乘忻・染淨涅槃繫念分別就第七地中先牒經文二解釈々中言第七地
 765 証諸法無相理於能觀無相空智中起有勝行空有難合而能合運所以受
 766 大乘法味喜樂自持就解第八地中先牒經文二解釈於第八地中一切煩、
 767 惱不復現行離五怖畏因名起・五怖畏若論五怖畏果初地已離余二
 768 地可解上來第二復次約十地解訖自下第二復次約十列・彼岸等解
 769 釈由初地行於檀波羅密故皆得住大乘由二地修行尸波羅密
 770 三聚淨戒名遊大乘法由三地得屢提波羅密具法思惟等三忍
 771 所以於諸衆生其心平等由四地得毘離邪波羅密能離三種分別
 772 由五地得禪波羅密依之發智摧諸魔怨由六地得般若波羅密
 773 故離一切声聞獨覺分別由七地得方便波羅密故証無相理故、
 774 能広大法味喜樂所持由八地得願波羅密故依乘大願能超五怖
 775 畏因由九地得力波羅密故能一向趣入不退・轉位由第十得智波羅、
 776 密故能息諸衆生一切煩惱所逼迫地而現在前言十大願亦如是配釈

777 者華嚴經云由菩薩第一願々当来世以清淨心供養一切諸仏皆無有
 778 余故得安住大乘瑜伽云若謂菩薩願於当来以一切上妙供具供養無
 【第二十七紙】
 779 量無辺如來名第一・大願華嚴云由第二願一切諸仏所説経法皆悉受
 780 持摂仏菩提隨順仏法守護仏法故得遊大乘法輪伽云若諸菩薩
 781 由第二願々願於当来摂受防護諸仏世尊所有正法住持法眼令無
 782 斷壞名第三・正願華嚴經云由第三願々一切仏八相成道尽住供養摂
 783 法為首故得於諸衆生其心平等・瑜伽論云若諸菩薩願於当来
 784 從觀史多天宮降下乃至入大涅槃名第三・願華嚴云由第四願一切菩
 785 薩所行広大諸波羅密所摂諸地助道之法一切菩薩所行教化令其
 786 受行皆得增長離諸分別及分別種々分別・瑜伽云若諸菩薩願於
 787 当来行一切種菩薩正行名第四・大願華嚴云由第五願一切三界六趣四
 生
 788 名色所摂教化成就断一切世間道令住仏一切智恵使無有余故得摧
 789 諸魔怨・瑜伽云若諸菩薩願於当来普能成熟一切有情名第五・大願華
 790 嚴云由第六願々一切大小世界無數無量皆現前知故得遠離一切声聞
 791 獨覺繫念分別・瑜伽云若諸菩薩願於当来一切世界皆能示現名第六
 792 大願華嚴云由第七願以一切仏土入一仏土以一仏土入一切仏土智恵
 衆生悉
 793 滿其中諸仏大神通力隨衆生心而為示現故得広大法味喜樂所持

794 瑜伽云若諸菩薩願於當來普能淨修一切仏土名第七大願華嚴云申
795 第八願與一切菩薩聞心聞覺共集諸善無有怨嫉隨其所應能
796 現仏身自於心中達仏境界常得隨意神通遊諸仏國現身入會普
797 生其中故得超五怖畏瑜伽云若諸菩薩願於當來一切菩薩皆聞一
798 種意樂加行趣入大乘名第八大願華嚴云由第九願乘不退輪行菩
799 薩道見身聞說歡喜生智離諸煩惱如菓樹王故得一向趣入不退、
800 轉位瑜伽云若諸菩薩願於當來所有一切無到加行皆不唐捐名第
801 九大願華嚴云由第十願一切世界得大菩提八相成道現諸如來大神
802 智力隨一切衆生所應度者令得仏道故得息諸衆生一切苦惱所逼迫地、
803 而現在前瑜伽云若諸菩薩願於當來速証無上菩提名第十大願訖以
804 初地已上一々地中普撰一切諸地行故或十句撰此十到彼岸十大願等、
805 或一到彼岸或一大願撰此十句互得相撰也上來第二歎德訖自下第
806 三妙生菩薩下并對揚之實文中有三初牒經文第二解妙生名總名
807 前已解今釈其別名謂能從因發起圓滿功德之果與能發起圓滿果
808 因相應諸三摩地名爲妙生菩薩得此妙生三摩地故立妙生号以諸菩
【第二十八紙】
809 薩名多依法立故如慈氏菩薩等弥勒唐云慈氏住因修慈三摩地由
810 此三摩地終能發起圓滿徳故從此慈法爲名也三於此衆中下解而爲
811 上首謂此衆中妙生最居第一故名上首以是上首故於下如來唯告
812 妙生發起此所説教也此経存略唯列妙生一人之名所余衆會但舉

813 其数結集之人意存略也
814 弥勒十願者 願共一切仏 願受一切法 願八相成道 願行菩薩行
815 願化一切生 願知一切界 願示一切土 願同入大乘 願行皆不虛
816 願速証菩提
817 仏地経論卷第二
818
【後註】
036 〻・「経」を誤写した文字↓「経」。
037 遇↓「過」。
039 遇↓「過」。
041 〻・「経」の誤字↓「経」。
046 憶↓「億」。
070 聞↓「同」。
070 聞↓「同」。
070 聞↓「同」。
087 聞↓「同」。
088 於↓「相」。
098 証↓「際」。
099 証↓「際」。
122 無の下に「二」が脱字か。

319 297 294 291 235 229 226 210 202 201 195 193 192 189 185 182 173 173 166 156
 唯・遇 怖・受 証・注 注・聞 聞・末 起・未 聞・聞 聞・聞 聞・未 海・主 主・聞 聞・注
 ↓
 准。過。希。愛。際。法。法。同。未。削除。同。同。同。未。誨。生。同。の文字上に朱点。注。
 法。

八九

541	519	510	509	507	507	503	502	501	485	480	467	463	449	437	416	412	407	399	394
「未」・ ↓「未」。	「正」・ ↓「已」。	「以」・ ↓「已」。	「以」・ ↓「已」。	「第若」・ ↓「第五若」。	「聞」・ ↓「同」。	「憎」・ ↓「増」。	「咸」・ ↓「減」。	「勝」・ ↓「脱」。	「六」・ ↓「五」。	「或」・ ↓「惑」。	「戒」・ ↓「或」。	「地」・ ↓「他」。	「見」・ ↓削除。	「差」・ ↓「善」。	「減」・ ↓「減」。	「還」・ ↓「逮」。	「■」・ 「録」を誤写した文字↓「録」。	「聞」の文字上に朱点↓「同」。	「聞」・ ↓「同」。

627	623	610	610	605	601	598	596	595	594	594	592	590	583	582	578	569	565	560	557
「■」・ 「閏」の誤字↓「閏」。	「聞」・ ↓「同」。	「重」・ ↓「助」。	「重」・ ↓「助」。	「易易」・ 二文字目の「易」の文字上に朱点↓削除。	「能」・ ↓「徳」。	「聞」・ ↓「同」。	「聞」・ ↓「同」。	「聞」・ ↓「同」。	「聞」・ ↓「同」。	「聞」・ ↓「同」。	「被」・ ↓「彼」。	「待」・ ↓「待」。	「其」・ ↓「某」。	「聞」・ ↓「同」。	「聞」・ ↓「同」。	「切」・ ↓「劫」。	「訖」・ ↓「説」。	「住」・ ↓「往」。	「正」・ ↓「止」。

762 759 758 754 750 750 731 707 706 703 689 688 668 660 652 650 631 631 630 629
 [着]・[朋]・[未]・[染]・[聞]・[聞]・[能]・[已]・[死]・[須]・[聞]・[由]・[今]・[自々]・[■]・[々]・[聞]・[提菩]・[聞]・[唯]
 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
 [差]。 [同]。 [未]。 [深]。 [聞]。 [聞]。 [解]。 [以]。 [怨]。 [頃]。 [聞]の文字上に朱点 ↓ [聞]。 [遊]。 [令]。 [々]の「々」の文字上に朱点 ↓ 削除。 [翻]。 [々] ↓ 削除。 [同]。 [菩提] ↓ [菩提]。 [同]。 [准]。

800 797 795 795 795 794 788 788 782 781 778 768 767 764
 [到]・[聞]・[覺]・[聞]・[聞]・[申]・[仏]・[就]・[三]・[々]・[謂]・[列]・[起]・[忻]
 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
 [倒]。 [同]。 [学]。 [同]。 [同]。 [由]。 [仏]の下に「法」が脱字か。 [熟]。 [二]。 [々]の文字上に朱点 ↓ 削除。 [諸]。 [到]。 [超]。 [欣]。

石山寺所藏 靖邁撰『仏地経論疏』卷六の翻刻

【凡例】

- 一、本翻刻は石山寺藏『仏地経論疏』卷一・二・六のうち卷六の全文翻刻である。
一、本資料の書誌情報は以下の通りである。

体裁…卷子本

表題…仏地経論疏卷六（外題箋）

首題…仏地経論疏卷第六

尾題…仏地経論疏卷第六

法量…縦二十七・五糎、横（原表紙は二十・一糎、第一紙から第二十三紙は五十・二〇五十一・九糎、第二十四紙は四十七・四糎、第二十

五紙は四十七・三糎）、行数二十八行内外、字数二十五字内外

紙数…二十六紙（原表紙と本文二十五紙）

料紙…穀紙

界線…淡墨界、界高二十三・二糎、界幅二・〇糎程度

備考…朱筆（一部、墨筆）にて合点・句切点（一部、訓点）あり。

- 一、以下は卷二の凡例に同じ。

【第一紙】

001 仏地経論疏卷第六

沙門靖邁撰

002 上來第一決択五法差別訖自下第二決択受用和合一味事智随問答別

003 004

論則有六依論師牒解則唯有四言随問答有六者初明妙生須果問
其
因二仏告妙生下答因同果第三妙生復白仏言下問因位地第四仏告妙
生下約

005 証酬請第五妙生復白仏言下明理証無相請借喻談第六仏告妙生下明
 006 如來為証妙理寄喻酬問言依論師牒解有四者謂前兩問答皆合而
 007 牒前唯有四今依此四次第解釈文即為四就初番問答中先牒經文
 008 次論師解釈就牒經中先明妙生領果問因二如來對問顯因同果就論師
 009 釈
 010 中其文有四初釈為問之意二智能受用下正釈向詞三菩薩亦能下釈仏
 011 答教四若諸菩薩下義有不盡問答會通就初釈問意中其文有二
 012 初弁問所依謂依受用和合一味事智為問二前弁仏地下正釈問意問意
 013 有三初以如來淨界唯鏡智等証妙生疑証此界為唯如來亦通菩薩故
 014 為此問文中有二初明淨界一味仏智受用和合一味無動無作言無動作
 015 者釈
 016 和合一味所以謂加行後得智縁一味淨界時有於相分動作行解不能如
 017 智和
 018 合一味今仏鏡智等証淨界時和合一味離於相分行解故無動作二明妙
 019 生疑
 020 問意第二或前但下明五法唯撰大覺地並唯一相唯仏受用疑不通余為
 021 欲
 022 審定故為此問文中有三初挙説五法撰大覺地二清淨下弁五法一味相
 023 初明
 024 淨界是諸法如々如無別故体唯一味四智体既是如依縁之時豈得別

019 相々即体也
 020 是故五法咸同一相也三如是下弁問意第三此中下以理驗教結因智不
 021 証故定須
 022 問自下第二正釈問詞其文有十一初解受用謂智能受用所応受用和合
 023 一味真
 024 如境界故名受用二解和也謂無分別智与真如共同一体故名為和三解
 025 合謂智如雖
 026 同一或復因智与真如別離為顯境智常不別離以仏無不在定心故々
 027 復言合四総解和合謂所縁真如能縁之智平々等々畢竟和合無有別離
 028 故名
 029 和合五解味々者謂堅実即所受用所縁法界真如一味堅自実是故名味
 030 六解
 031 事々謂事用也謂用無分別智受用和合一味真如七解智々者即是能受
 032 用智正
 033 取鏡智平等性智兼取余二謂妙觀察成所作智多縁真故者以前二智常
 034 縁真
 035 故所以正取前二智以為智体八重解一味或一味者能受用智自体無分
 036 別故
 037 【第二紙】
 038 々名一味前約真如解一味今約智解一味九重釈事々者是果縁淨法界

而生起

029 故法界之理以為縁因生起智果也前約真如是智所受用事故名事今約縁

030 真如理生智事果是故名事十重解受用一味或能受用即是捨受名為

031 受用以証真如時於真如境無苦樂違順名為捨受以無苦樂一類平等故名一

032 味前約智能受用一味真如境故名受用一味今取智求心捨受証真之時

033 無苦無樂平等一類故名受用一味前智名受用境為一味今此受用一味同

034 約捨受為体十一重釈事々者果也即此相應円鏡智等四智由彼捨受力生故

035 名智是彼捨受之果前第二解事謂智是真如果今解事謂智是捨受果

036 証真如時實有喜樂以喜樂行解相微故総名捨受或是十一善数中行捨名捨無功用相於一切処一味而転故名受用和合一味而此行捨与喜

038 受相應行捨相應能受用智説名事智或智自能領受已体故名

039 受用自他二種分別無故説名一味事者果也謂行捨及智俱名為果以此二

040 種從衆因縁而得生起遠離自他二想恒時起故上来第二釈妙生問詞

041 訖自下第三釈如来答其文有二初牒經文故言菩薩亦能等者二釈云

042 此中仏答應説受用和合一味事智非独如来菩薩亦能受用也自下第四

問

043 答会通初問云若諸菩薩亦能如是受用和合一味事智云何前文但言有五

044 種法撰大覺地不言五法亦撰菩薩地二会通云此中経意説於仏地唯是

045 五法所撰仏地皆尽不説五法唯撰仏地故知五法亦能撰諸菩薩地也

046 上来第一牒初番問答解訖 自下牒第二番問答解釈文中有二初

047 明妙生問曰因位地謂何位地菩薩能受用和合一味事智第二明仏約証酬

048 位文中有三初総答証得無生法忍菩薩能受用和合一味事智二由彼菩薩下

049 釈能受用所由謂由得無生忍対治自他二想得平等心故能受用和合一味事

050 智三從此已上下釈受用分齊謂証得無生忍已上菩薩自他異想不後現前

051 皆能受用和合一味事智就論釈中其文有二初釈妙生問二証得無生下

052 次釈如来答就釈問中初和問意二故復問言下正拳問詞就序問意中有二初

053 如来直言菩薩亦能然菩薩位有高下為顯未得初地大乘無生法忍菩薩

054 既未証二空未有受用和合一味事智二或在七地已來住於功用有加行

道未能

055 始終受用和合一味事智二正釈問詞為有此兩疑故復問言何等菩薩受
056 用和合一味事智自下第二釈如來答文中有二初約初地已上菩薩解証
得無生

【第三紙】

057 法忍二有說初地下計約八地已上菩薩解証得無生法忍就初約初地已
上菩薩

058 解証得無生法忍中其文有三初謂初地已上菩薩証得二空所顯真如觀
一切法

059 遍計所執本性無生亦無有滅本來寂靜自性涅槃如此菩薩能受用和
060 合一味事智二非如二乘下簡小異大以二乘之人但証生空未証法空未
能

061 觀法平等不能受用和合一味事智三地前菩薩下簡凡異聖謂地前菩
薩未証二空所顯真如故不能受用和合一味事智自下第二約八地已上

菩

062 薩解証得無生法忍中其文有六初約地拳數故言有說初地已上菩薩
063 復有三種二初發心下次列三位三此中唯取下簡前取後四如契經下
064 引說証成五由得任運下正釈經文六初地菩薩下簡劣異勝就第二
065 列三位中三位文即為三初言初地已入見道者此中令以初地一地為見
066 道若依

067 世親菩薩旧釈撰論云初地初心名見道第二念已去名修道或未出觀名

068 見道出觀名修道第三釈与此同言正性離生者生謂見道煩惱如

069 世間生食在身多為諸患見道煩惱在身亦爾能感三惡趣等若人能入無

070 漏現觀名為正性証此正性已便能遠離見道生煩惱過故言正性離生真

071 無漏心創現行故者無漏種姓無始本有昔於地前雖學作真觀但得於似

072 無漏今正証真如妙觀察智及平等性智此二真無漏智相応之心此時与

073 智創得現行也二已修行者对初地始修無漏行名今二地已去為已

074 修行謂上已修行也此亦簡異初地是見道位名今二地已去為已得修道
位

075 也進修行者釈修道名也三不退転謂上三地 約位弁不退修道已下釈

076 不退転義対前七地由有加行不能任運恒進於未得有退修道微細煩

077 惱尚起今入八地修無功用道已得過漏既離功用不復加行真智任運常

078 証法流一切微細煩惱畢竟不起無漏現觀念々勝進故名不退転三此中
唯取

079 下第三簡前取後文中有三初正簡前取後謂此中仏說証得無生法忍

080 菩薩者唯取八地已上菩薩二觀一切下弁此菩薩証得無生忍相謂此菩

081 薩觀一切法本來無生今亦無生起亦生也本若有生今可有生本既無生

082 今為有生問生滅相對何以但觀於生而不觀滅答法若有生可得有滅法

083 既無生滅豈応有但知本今之生俱唯遍計所執既觀遍計所執生無遍

084 計所執之滅不言自懷忍者解也得者証也謂作此觀時得於諸法証無生
解

【第四紙】

085 言得上品忍者簡異初地一向清淨者微細煩惱亦不現行故恒起無漏任
運而轉
086 者無功用道常現前故三由得下結証得無生法忍所以如契下第四別說
証成離法想故者明離法執無我々所者明離人執或俱明離法執謂離
遍計所執法想也無我々所者不執法有自性名為無我不執法有作用名
無我所諸遍計所執本來無体所以非常亦非無常無生無起已如前解
090 人法二我本未寂靜彼此既云自他為不平等上來已解經証得無生法忍
訖
091 自下第五解由遣自他已下經各有三初由得下解上遣自他二種想故得
平等
092 心謂由得人法二無我解所以能任運對治自他二想故於一切處得平等
心也二從此下
093 解上從此已上彼諸菩薩自他異想不復現前謂從八地已上由得人法無
我解
094 故離自他二想無諸功用遠於加行又由微細煩惱不復現行所以一向無
漏極
095 善清淨無分別智任運而轉三方得下解上受用和合一味事智謂由得離
二想及諸功用一向無漏極善清淨故所以方得受用和合一味事智初地
096 菩薩

097 下第六簡劣異勝謂初地已上乃至七地雖亦分得離人法二執証自他平
等為有功用及加行作意未是一向無漏極善清淨故而未建立受用和合
一
098 味事智上來解釈第二問答訖 自下第三妙生明理証無相請借喻談文
中有二初牒人問喻二令諸菩薩下明請問所以文中有三初令諸菩薩自
悟
100 深義二令諸菩薩隨緣利他三明為令衆生悟無生忍論文解釈其義易解
101 自下第四明如來為証妙理寄喻酬請就酬請中其文有二初明諸天人林
喻
102 二復次妙生下明衆流赴海喻就初喻中其文有四初明未入雜林計我々
所不
103 能和合受用喻二若入雜林捨捨我等分別和合受用喻三如是菩薩下未
証無
104 生忍未能和合受用以合初喻四若已証得所謂証得無生忍能受用和合
以
105 合第二喻就論釈中有四初釈未入雜林不能和合受用喻二若在此林下
釈若入雜林則能和合受用喻文中有三初総釈前喻文二此由諸天下釈
前
106 在林平等所以謂由諸天各修平等和合福業增上力故合彼諸天阿頼耶
107 識名言種子作諸因緣各現此林同處同一相狀為本性相三由此下謂復
108
109

110 由本性
 相雜林為增上緣故令彼諸天眼等六轉識亦同處同時同一相狀變現為
 影
 111 像相林雖復諸天各自識變隨其相分及以自識實各有異而同處受用同
 一相狀不可分別而謂無別三如是地前下積前第三合初未入雜林喻文
 中
 112 有
 113 有二初明地前菩薩及以二乘未証二空故不能受用和合一味事智二有
 義
 【第五紙】
 114 所謂七地已還猶有功用微細煩惱現起故不能受用和合一味事智
 115 有積第四合喻唯前第三兩番不和合翻此兩番即是和合受用一味為此
 116 略而不言 自下第二明衆流赴海喻文中有四初明衆流未入大海隨々
 依々
 117 各別喻二若入大海下明衆流入海依持無別喻三如是菩薩下明未証如
 來地
 118 所依各別智有增減合初未入大海喻四若已証入下謂已証如來地所依
 無差
 119 別智無有增減合前第二已入大海喻就論海積中其文有五初積第二未
 入
 120 大海喻二若入大海下積第二已入大海喻三如是菩薩下積前第三合未

121 入大
 海喻如來下積前第四合已入大海喻五前後二喻下弁前後二喻差別之
 相
 122 有兩番解初番約因果兩位積差別後番唯約因就功德弁差別初番未入
 123 已入或歡喜地者謂未入歡喜地不能証得無生忍已入歡喜地則能証得
 無生
 124 忍未入已入或不動地者謂未入不動地有加行功用及微細煩惱現起不
 能受
 125 用和合一味事智已入不動地証無功用道一切煩惱不復現行故能平等
 受用和
 126 合一味事智後喻未入已入不動地者未入不動地謂七地已還已入不動
 地謂八地
 127 已上受用和合不受用和合如前解未入已入或如來地者未入如來地智
 有增減未能平
 128 等受用和合一味真如已入如來地智無增減如智平等故能受用和合一
 味有義二喻
 129 同說菩薩未得已得無生法忍不說如來前雜林喻々菩薩功德稠密如林
 後大
 130 海喻菩薩功德無尽如海上來第二決択受用和合一味事智訖自下第三
 決択依

- 131 淨法界具諸功德三身差別文中有四初序世尊所說之頌二明論師釈頌來意
- 132 三於四頌下科判頌文四經曰下別牒解釈初言序世尊所說之者此中応具
- 133 列所說四頌論師以下別牒解釈恐其文中煩直牒集經之家序世尊說頌而
- 134 已為存略故二明論師釈頌來意文中有二初直弁頌之來意々々為撰前長行諸
- 135 經說頌乃有多意今略論四種一為後來諸從不問前說內心怖聞大聖懸鑒
- 136 所以拏頌重說二為鈍根之者前一住為說心猶未了今更重序鈍情方悟是以再
- 137 陳三為聞持者易前既長行散說誦記成難今略為誦文記持則易為此頌說四
- 138 如來果德実乃塵沙雖復広談莫究崖除上來雖說但談五法疑情意謂
- 139 說仏德不尽故拏四頌総撰前經彰所說雖五総撰仏德莫不皆尽然說頌之
- 140 意実具此四前三易了論師略而不言第四正是大聖玄意所以釈頌其相故言
- 141 当說四頌、総撰上義、略顯仏地淨法界相二如來地下、明以略頌、
- 142 撰長行広意、謂如來地中、為無德皆淨界撰、即是淨界之相、淨界是所相、四智是能相、能相所相、義雖
- 【第六紙】
- 143 有殊、論其体、総唯法界、是故総以為無為德名淨界相、上來第二明論師釈
- 144 頌來意訖、自下第三科判頌文、論師約兩義科判、初約五法三身以釈頌文、二
- 145 約六相功德以解重頌、初義約頌、総開為二、別分為八、前三頌半、別顯七相、後之半頌、総
- 146 結所說、開前三頌半、為七相、具如文列、二復有義下約六相功德、以解重頌、初総顯所明
- 147 六相総撰仏地功德、二謂自性下別列六相、三初有一頌下以相撰頌、謂初開為二、
- 148 別開為六、前三行半、是別開為六、初有一頌是自性相、後有兩頌半相別各撰半
- 149 頌、具釈所以皆如下文、自下第四別牒解釈、就別牒解釈中、宗約初義五法三
- 150 身、以開其文、是故総別於其四頌、分之為八、其第二六相功德、隨而弁之、就前相別、

151 開八文、即為八、第一解第一相頌經、謂一切法真如二障清淨相、就論釈中、有三、初

152 約七相、以解頌文、二有義下約就六相、以解頌文、就前七相以解頌中、其文

153 有四、初顯頌所明、二謂一切下總釈頌文、三一切法下別牒解釈、四如是已顯前五

154 法下釈訖總結所明、初顯頌所明中言有義者為有七相六相兩解不同、為別其相、故

155 標有義此顯清淨法界者正釈頌所明、謂此兩句頌、顯示如來清淨法界相也、二總釈

156 頌文、其文有三、初言一切法空無我性所顯真如者此釈初句頌、一切法空、即是法空無

157 我、無我即是人空無我、此二我所顯之理即是一切法真如、故名一切真如二永離

158 下解下句頌、約二義釈成二障清淨相、一以真如無始已來永離二障遍計所

159 執之境以二障障其性自性不能染於真如、是故真如本性清淨二今復以下

160 分別智、決択二障、令相離染、故言二障清淨相三能為下、結用、成体、亦即釈法界名、

161 謂一切為無為等善法所依、是故說名清淨法界、々者体也、是諸法自体故為

162 諸法所依、自下第三別牒解釈、文中有四、初牒一切法解、謂世出世有漏無

163 漏蘊界處等一切法也、第二解真如、文中有五、初明是前一切法実性及無顛倒

164 性、二与一切法不一不異体唯一味随相分多三或説下対前随相分多増数以弁

165 或説二種、文中有三、初約筌分別、謂生空無我法空無我、此二一向是其無法

166 瑜伽云有為無為名為有無我々所名為無二真如実非下簡理異筌謂但由

167 修習空無我滅除障真如我々所之執而証得故、從能証二空之筌、為名、遂

168 名真如為空無我、或説三種謂善不善無記之法、真如、是此三法真実性故、々從筌、

169 為名、々善真如等、或説四種謂欲界繫色界繫無色繫及無漏無為不繫之法、真如、是此四法真実之性、亦從筌、為名、々欲界繫真如等、或説五種、

170 等、或説五種、

【第七紙】

- 171 謂心真如。心所真如。色真如。非色非心真如。無為真。々如。々
是此五種之法。真实性
- 172 故。心謂八識心。眼識乃至阿賴耶識。心所有五十一。如前広列。
色有十一。謂五根。五塵。及
- 173 法処所撰色。不相応有二十四。謂得。無想定。滅尽定。無想異熟。
命根。衆同分。
- 174 生。老。住。無常。名身句向身。文身。異生性。流転。定異。相應。
勢速。次第。時。方。数。和合。
- 175 無為依対法。有六十。謂善法真如。不善法真如。無記法真如。虚
空。非択滅。択滅。
- 176 不動。想受滅。若依百法明門。合三性真如。以之為一。故但有六。
亦以此五法
- 177 真实性故。或説六種。謂色真如。受真如。想真如。行真如。識真
如。無為真如。
- 178 亦以真如是此六種真实性故。或説七種。一流転真如謂生死諸行真
如是此無始世
- 179 来流転諸行之実性故。二実相真如。謂二空無我所顯実性。三唯識
真如。
- 180 謂真如是一切唯識実性。四安立真如。即苦諦実性。五耶行真如。
即集諦実性。六
- 181 清淨真如。即滅諦実性。七正行真如。即道諦実性。或説八種。謂
不生真如。
- 182 乃至不去真如。此之八種並是遍計所執由遣此八種遍計所執相門。
所顯真如。
- 183 或説九種。謂九品道除九品障所顯真如。或説十種。謂於十地除十
無明。所
- 184 顯真如。即十法界如撰大乘広弁名相者。撰大乘云。初地中由遍行
義。即一
- 185 切法空。是無有少法而非是空。故名遍行。了知此義。得入初地。
第二地由最
- 186 勝義。謂此空理一切法中最为殊勝。了知此義得入二地故。第三地中由
勝流義。
- 187 謂所流教法最殊勝故。了知此義得入三地故。第四地中由無撰受義。
謂契経
- 188 等法愛断故不計自他所撰。了知此義得入四地。第五地中由相続無
差別義。
- 189 非如色等相続差別。了知此義得入五地。六地由無雜染清淨義。謂
知自性
- 190 本無雜染。亦無清淨。了知此義得入六地。七地由種々法無差別義。
如契経等

191 種々法別、此不如是、了知此義得入七地、八地由不增不減義、謂法外無用、所以
 192 不增、諸法不壞、所以不減、或染法減時此無有減、淨法增時此無有增、了
 193 知此義得入八地、第九地中由智自在依止義、謂此地中得無礙弁所依止故、於
 194 一切法不隨其言、若能了知諸意趣義、了知此義得入九地、第十地中由業自
 195 在等依止義、謂隨所欲、得身語意、業用自在、依五神通、隨自作業、皆能成
 196 弁、了知此義得入十地、言十無明者、一異生性無明、二於諸有情身等耶行
 197 無明、三達鈍性無明、於聞思修而有妄失、四微細煩惱現行俱生身見等無
 198 明、五於下乘般濕槃無明、六塵相現行無明、七細相現行無明、八於無相
 199 作行無明、九於饒答有情事不作行無明、十於諸法中未得自在無明、謂地
 200 々除一無明、各証前法界、如是增數乃至窮尽一切法門皆是真如差別之相、四

石山寺藏 靖邁撰『仏地經論疏』の研究

【第八紙】
 201 明真如体離一離多、謂真如体非一非多分別言說皆不能弁五由離一
 切下釈
 202 真如異名、真如之名実乃無量、今且說六、故言如是広說 自下
 第
 203 三解二障、文中有八、初列二障名、二惱乱下釈二障名、三煩惱障
 者下弁二
 204 障体、四三性分別所知障、五双明二障体、六明二障体同断異、七
 約四無記分別、
 205 八対初師問答分別、此弁二障体中先明煩惱障体、謂執有実我薩迦
 耶見、
 206 依経部及大乘解、梵名薩迦耶、唐言虚妄可破壞義、謂執虚妄可破
 壞身
 207 而起此見、故名虚妄可破壞見、依薩婆多解、薩唐言有、迦耶唐言
 身、故雜心云
 208 有身見、以印度大小乘等釈此名不同、是以不翻、於大乘中三界見
 修有一百
 209 二十八根本煩惱、皆以薩迦耶見以為上首、及随煩惱並前弁說、若
 以煩惱所発三
 210 業及以煩惱所聞得果此摂在煩惱障中、以本撰末、故言皆以煩惱為

根本故、

211 以業果是未故在煩惱障取、所知障体者謂執遍計所執一切諸法定有

体性、即

212 是法我薩迦耶見以為上首、前一百二十八根本煩惱、能令身心不最

靜義辺名

213 煩惱障、若執有定性皆是法執即所知障取、故所有法執無明法愛法

恚等諸

214 心々法及所發業并所得果並所知障、然所知障不能業^レ發及以閏業

得異

215 熟果、今言所發業并所得果皆撰在中者但取法執等同時意思為所

216 發業并与法執等所得等流果皆撰在所知障中、或即執愛恚等見修^レ因

217 惱等諸心心法為定性有、及此煩惱等所發業并所得果皆執為定性有

218 並皆撰入法執中故、皆是所知障撰、亦以本撰未故、々言皆以法執

及無明等

219 為根本故四有義下偏就三性分別所知障体、有師云法執及無明等遍

在一

220 切善惡無記有漏心品、亦遍二乘無漏心品、以皆不了達法無我故、

又皆似相見

221 分起故、唯此師釈、若無漏心品無有二執、則無相分、若有相文必

具二執、三藏

222 云此師依世親菩薩十二因緣論云無明遍通三性、故作此釈、二有說

云下第

223 二師解、文中有三、初總明立宗、謂法執唯在不善無記有漏心品、

謂法執及無

224 明等唯在不善無記有漏心品、故、言在不善無記、簡於善心、言有

漏心簡二乘無漏、

225 二引瑜伽云諸無明但有二種、一者不善、二者無記、復有二種、一

者染汚、二不染行

226 弥勒世尊不言法執無明等有善性、三立道理、文中有四初明無明不

与善心

227 俱、自有三、初云不可下明無明与善心相応自相違過証善心不与法

執俱、故言不

228 可非善与善心相応性相違故、言非善者謂不善無記無明也、二又善

心下約三

229 善根証善心不与法執俱、謂善心品必与無痴善根相応、痴即無明不

可一心之

【第九紙】

230 中痴無痴並、如貪無貪瞋無瞋等不相応故、不可法執不与痴俱、若

無々明

231 無有倒執、如執有我定与無明共俱此亦応爾、三又諸善不約起觀方

232 便証
 善不与法執俱。又諸善心性無迷執皆与信等共俱順無我解。与二空
 觀為前方
 233 便。不可地前菩薩起善心時有法執俱。能導初地法空觀。以於人我
 執中於小
 234 乘位未曾見七方便善心起時与人執俱導人空觀事。是故有漏無漏善
 心決定
 235 不与二執無明愛等相応。違教理故。違教謂違瑜伽教。違理不可非
 善与
 236 善心相応等已下道理。二一切異熟下証異熟無記心不与法執俱。文
 中有五。初謂一切異
 237 熟無記心品亦無法執及無明等。以異熟無記心任運而起分別力劣不
 能執
 238 〔二〕違瑜伽説過。若異熟無記心有倒執則成法我見。既有法我見応
 有惠數。若
 239 有法執則有無明數。若有惠及無明瑜伽論阿頼耶識不応唯説与五遍
 行法
 240 相応。若有見無明等即是惠無明等撰故応与七法相応。不唯五也。
 三又若此
 241 下拳是所重証無法執。又若此異執阿頼耶體識有法執者便能熏。是

242 則八識俱是能重則無所重。若無所熏一切煩惱諸法、心念々失不須対
 治。〔四〕
 243 無所重無有種子則無煩惱故不須対治則成大過。謂有自然成仏之大
 244 過也。煩惱障中無此不須対治事。今所知障中亦応無此不須対治事。
 四又法
 245 空下拳法空觀現前本識不斷。証異熟識無有法執。若異熟識有法執
 者
 246 菩薩初地見道法空觀初現時此異熟識即応斷滅。以障治相
 247 違不俱行故。五若爾下縦以示過。若初地見道第六意識作法空觀現
 248 前時此異熟本識由是法執故則斷滅者所余有漏種子、心無所依。
 249 初地已上第六識所修無漏功德、心無熏習。無所熏故不可説言熏習鏡
 智相応
 250 淨識夫受熏者要是無記相、心淨識既非無記故不可熏故撰大乘論云堅
 無
 251 記可熏、當知淨識是善非所熏也。又相応淨識、仏果方起、今初地中猶未得
 252 故不可熏三阿頼耶下以阿頼耶〔異〕執既無法執、類余第六轉識是異熟者
 253 皆無法執、以性類同故四於五識下弁三性五識皆無法執、文中有六初立
 宗
 254 云於五識中亦無法執、二立因云無有猛利分別用故不推求故三引説双
 255 証宗因謂撰大乘論説能遍計心唯是意識故五識不縁遍計所執自性四

立同

256 法喻謂如人執中以五識無分別無推求見不能計度於人我故知五識於

法執

257 中亦不能計度諸法我也五積伏難言若五識不計人計法五識忘無煩惱

故

258 今釈云然由意識計人我法我起愛恚等引五識中非見所撰修道所斷愛

恚無明

【第十紙】

259 等起五識雖無有見而有愛恚無明等此愛恚無明等亦在二障撰六是故

260 人法二執分別推求唯在第六第七識中若愛恚無明非見所撰不推求者

261 亦在五識第五諸我執下約三性双弁二障体初明煩惱障諸我執等煩惱

262 体唯在不善有覆無記二心中有二明所知障文中有四初立宗云若法執

等所

263 知障体亦在無覆無記心中二立因云二乘無學亦現故以二乘無學位亦

有

264 法執現行故知法執唯在無覆無記心中三釈其所以二乘無學位中無有

265 不善有覆無記現行及種子故知但有無覆無記現行三乘言便即明無覆

266 無記所知障不染名異此所知障無覆無記就二乘治道名為無覆若望

菩

267 薩治道即是染汚亦名有覆故所知障亦名無覆亦名有覆一体二名所望

別故

268 第六煩惱障下明二障体同斷異文中有四初明体同煩惱障中定有所知

障以所知

269 障是煩惱障所依故必由執法有体方計人我故二明用別体無二而用有

別

270 執法有性是法執即於所執有性法上計有人我即是人執如一刹那眼識

体同

271 時取青黃等境其作用多計人計法亦復如是雖一耶惠計人計法二境差

別三明

272 以同体故但熏成一種子由是熏生一種子体種子雖一起有多用謂起時

計人計法

273 別也問即法計我可使与法執同種若異法計我如何亦得与法執同種答

迷情

274 謂法外有我論其所計不離於法所以還与法執同種如人闇中執繩為蛇

迷

275 情計蛇亦不言即繩是蛇然其妄計之蛇豈離於繩是故人執不離於

276 法所以二執同種四明斷異此之二障起時雖俱然漸而斷如不定種姓二

乘

277 得小果時已斷人執後廻心向大方斷法執以聖道勢力人空法空二觀分

278 齊有差別故亦如菩薩雖先斷見道人執其法執麁者位々別除修道人執

279 最
 後總斷皆是聖道有分齊故 第七若所知下約四無記分別所知障文
 中
 280 有五一間若所知障就二乘說是無覆無記者四無覆無記中何無記撰二
 答
 281 是異熟生無記所撰以第六識無記心從第八異熟識生起故不能任運常
 相續起故不名異熟但名異熟生三難若爾一切三性六七識心皆從第八
 異熟識
 283 生何者非異熟生而偏言意識無記從異熟生耶四通如增上緣余所不撰
 皆
 284 此撰故如四緣中增上緣通一切法以一切法皆有不障礙義於余三緣所
 不撰
 285 者皆此增上緣指此中亦爾雖三性六七識心皆從第八異熟識生應俱得
 286 名異熟生然就三性異熟生中除善惡二性及有覆無記并威儀工功變
 287 化三無記外皆此異熟生無記所撰若第六識從業所感任運而起是
 【第十一紙】
 288 異熟心此異熟心無有法執如前類釈余転識中異熟果亦応如是性類
 289 同故同是異熟果故非法執今言無記心法執者唯取思量推度諸
 290 法執有体性此無記心方便作意而起以從第八異熟心生故名異熟
 291 生自体非異熟也五明威儀等三無記不堅執推求故非法執夫

292 法執必遍三界威儀唯在下二界工功唯欲界變化唯色界既非普遍三界
 故
 293 非二障体 第八若善無覆下対初師問答分別文中有三初明善及無
 294 記非法執所以於中有四初外人問論主云若有漏善及無覆無記心中
 295 無法執者云何不能了達法空二論主反質答云有漏善及無覆無記
 296 心中無我執云何不能了達生空三牒外救云六識中有漏善無記心此既
 297 無有人執所以不能了達生空者由与第七識中我執俱故不達生空四反
 例
 298 云此六識中善及無記心所以不能了達法空者亦應由与第七識中法我
 299 執俱故不達法空自下第三明雖似相分見分而非法執文中有三初外人
 300 重責云有漏善無記心既似有相分見分而起云何不名法執所撰二論
 301 主反例答云諸仏菩薩後得無漏智等亦有相見二分云何非法執三乘
 302 言便明從因緣生相分見分從種子生者皆依他起撰不名法執若於此依
 他
 303 起於分之上妄計是心外法或計定有体性方名為執若無記心無此計者
 皆無
 304 法執第三故所知障下釈通世親菩薩十二緣論無明支通三性所以世親
 305 菩薩論說無明支通三性者非是無明与六識三性心品相応蓋是未
 306 那識中無明等遍与六識三性心俱故云無明通三性耳是以今論云故
 307 所知障在第七者遍与六識三性心俱非謂此無明与六識三性心品相応

- 308 故 自下第四解清淨相文中有二初抑前起後故言且正広論広釈
309 本文但二障之理広釈難窮故云且正広諍解頌未尽故云広釈本文二清
310 淨相下正釈本文弁清淨相凡有二種一本性清淨但為二障所覆相似不
311 淨
312 其実清淨二喩況由如虚空本性清淨雖烟雲覆相似不淨而実清淨二得
313 出世間下明離垢清淨謂從初地得出世間無分別智証真如道漸除
314 二障所有種子謂初地見道斷見道煩惱障種子并斷障初地所知障種
315 子自此已後地々之中各斷障地所知障種子故云漸除二障所有種子二
316 喩
317 喩況猶如大風吹烟雲等漸々除滅令彼虚空漸得清淨三合喩至金
318 剛喩定現在前時滅離一切煩惱所知二障種子尽得法界清淨究竟転依
319 名清淨
320 相上未第三別牒解釈訖自下第四釈訖結頌所明謂於五法中已弁清淨
321 法界
322 訖上來約就七相解頌以明第一法界清淨相訖自下第二約六相解頌即
323 解
324 第一自性相然自性相通撰一行頌此自性相則具二分初半行頌明法界
325 是
326 一切無為功德自性後半行頌明大円鏡智是一切有為功德自性上來已
327 弁無為功德自性一分訖故言此顯自性一分法界淨相即六相中自性一
328 分若更解釈
329 不異於前故言文同前釈 ・ 自下第二解第二相頌經謂法智彼所縁自
330 在
331 無尽相・論師釈中有二初隨七相此頌唯明大円鏡智二有義下隨六相
332 此頌通明四智就初釈中其文有三初総顯所明謂顯大円鏡智二法者
333 下別牒解釈三如是総顯下釈訖結頌所明就第二別牒解釈中其文有四
334 初牒法
335 智解文中有三初明法智從自種生故是依他起性簡異前法界二約縁真
336 以釈智
337 名言縁上真如之法鏡智名為法智三明亦縁俗立宗云大円鏡智亦縁世
338 俗依他
339 起性因云現彼影故以後得大円鏡智於見分之上現世俗依他相分之影
340 又因云
341 不迷彼故謂於彼影相自智所變不迷彼為心外法第二牒彼前所縁解文
342 中有五初解彼字有三初彼謂真如出所縁体二簡非異是故言非彼法智
343 以
344 法智字与彼所縁文相連恐濫所以簡之今言彼所縁者謂彼向前第一句
345 頌云
346 一切法真如非彼今同句之上法智之語也三釈伏々難々云々何隔句而

彼真如耶

333 故今通云彼真如之言雖復隔句然与二障清淨相之言相連以二障清淨相□

334 弁真如即是義勢相応故而仮之無有隔越之過失也二解所緣謂法智用彼一切

335 法真如為所緣故名彼所緣非謂法智是彼真如所緣也三大円鏡下広弁縁境寛

336 狭文中有六初徧明縁真謂大円鏡智亦縁勝義円成実性窮生死際内証彼

337 真如故対前已明縁世俗依他是故言亦二此説下徧明縁俗故言此説鏡智縁

338 一切法自相共相三通縁真俗故言円成実性依他起性俱為境故・四遍計所

339 執下弁非所縁境以遍計所執但是凡遇妄心所計非聖智境是故頌中不説鏡智縁遍計所執・五如論中下引瑜伽為証瑜伽云遍計所執唯凡智境円

341 成実性聖智境依他起性通凡聖境以凡夫三性五識及善無記意識皆得縁依他起性無法執故々不縁遍計所執聖後得智縁依他境遍計所執既無有

342 体故聖智不証六若爾下問答分別問若聖智不証遍計所執者彼聖智心

343

当

344 不則一切答彼遍計所執既是無法智何所知自下広弁不縁遍計所以若聖智

345 知遍計所執為有法如來則成顛倒若知遍計所執為無則非遍計所執自【第十三紙】

346 性若後得智心於遍計所執作無解時便有無法相分当心顯現此無相分從本識

347 種子生則是依他起摂故言心所現無依他起摂若言遍計所執約真実理本來是無即是真如之上無遍計所執由無遍計所執顯真如理無此理無

349 便是所顯真如則円成実性は故聖智雖知依他円成実二性是有亦知遍計所執是無而不縁彼遍計所執自性為境也 自下第三牒自在解大円鏡智

351 由修六到彼岸因証大円鏡智具十自在果妙用無礙故名自在摂大乘論云由

352 施波羅蜜多円満故具三自在一寿自在二心自在三衆具自在由戒波羅蜜多円満故具二自在一業自在二生自在由忍波羅蜜多円満故具勝解自在由釈進波羅蜜多円満故具願自在由静慮波羅蜜多円満故具神力自在五通所摂由般若波羅蜜多円満故具二自在一智自在二

354 法自在自下第四牒無尽相解謂大円鏡智窮生死際無間無断相統常

355

356

故々名

357 無斷相統常故無尽相謂所相々即体也智有所相自体故名所相或復能

相□

358 相於智体上有自在無尽之義以為能相如此所相表智自体故上来第二

359 別牒解釈訖 自下第三釈訖結頌所明上来随七相是第二唯明大円鏡

360 智訖自下随六相此頌通明四智文中有二初顯頌所明二法者下別牒解

釈初言此顯自

361 性一分仏果四智即六相中自性一分有為功德者自性相具二分一無為

功德分

362 前兩句頌弁訖今此兩句頌是自性相中有為功德一分通用四智為体就

363 第二別牒解釈中其文有六初解法就解法中有六初出法体即是大円

364 鏡智二明転去謂由第六意識相応妙觀察智対治力転去一切二障龜重

所

365 依阿頼耶識龜重即種子二障種子是能依阿頼耶識是二種子所依今

366 明転去所依三明転得謂転得清浄大円鏡智依他起性四明此円鏡無分

別

367 智縁真如行相智雖是心正証如時遠離一切心慮分別所縁能縁下顕離

368 分別相謂正証如時如智一体不以如為所縁智為能縁如智一相故言平

等平等

369 下明智雖離言而是依他縁生法性為体内証真如為此行相五又能下明

370 縁俗行相謂能外現一切影像照了一切雖能如是而無分別六総結名法

371 所以々々行相微細縁境不可知名無分別故総説為法第二解智文中有五

初出

372 智体即是平等性智二明転去謂由妙觀察智対治之力転去二種執着謂

373 衆生及法第七末那出能執二着之体三明転得謂転得清浄平等性智

因

【第十四紙】

374 他起性四明縁境行相謂縁鏡智及浄法界平々等々内証行相五故名為

智者

375 総結所明第三解彼所縁文中有六初出彼所縁体即余二智謂妙觀

376 察智成所作智二明転去謂妙觀察智対治之力転去世間分別

377 六識三明転得謂転得清浄妙觀察成所作二智依他起性四明縁境謂或

出

378 世間謂二無分別智或世出世彼二後所得縁上真如及法智等依他起性

以

379 為境界五明行相謂無執分別似所縁等現此明縁俗行相略不弁縁真行

380 相六用彼上下総結所縁境第四解自在通明四智妙用無礙故名自在第

五

381 解無尽文中有三初総明四智窮生死際常用不息故名無尽二約前二

382 智常無間斷故名無尽三約後二智雖有間斷常能現前数起無窮亦名

383 無尽第六解相文中為五初明相謂四智體相二明此之四智此從緣生說
 名清
 384 淨依他起性三此之四智皆無顛倒說名清淨円成美性四此有内証照境
 385 作用似境顯現說名為智五如是四智各能表其自体故名為相此謂以用
 表
 386 体故總名相也 自下第三解第三相頌經謂普遍真如智修習証円満
 387 論漏釈中有二初隨七相此頌唯明平等性智二有義下隨六相此頌明
 388 因相就初釈中其文有三初顯頌所明二謂初地下別牒解釈三如是
 389 下總結所明就第二別牒解釈中有二初解上句頌二於後十地下
 390 解後句頌文尽可解自下第二約六相釈文中有三初顯經所明相謂是因
 391 相言因相者謂從初地乃至十地所有智斷能与仏地証淨法界及以四
 392 智等果為因故名因相第二別牒解釈文中有二初解初句頌煩惱障有二
 393 種一是見道斷分別作意而起有一百一十二根本煩惱及随煩惱二是修
 394 道不化意分別任運而起謂俱生煩惱有十六種根本煩惱及随煩惱所知
 395 障法執中亦有二種一者見道斷不染汚分別法執二者修道斷不染汚
 396 不分別任運而起俱生法執菩薩初地中無分別智觀初遍行法界用見道
 397 三心斷見道斷百一十二根本煩惱及随煩惱并滅見斷不染無明分別法
 398 執最麁分言見道三心者対法論云々何見道謂世第一法無間所得三摩
 399 地鉢羅若及彼相応等法釈云由無分別奢摩他毗鉢舍那等為体相
 400 故又所緣能緣平等智為其相釈云由此通達所取能取無性真如

401 故又遣各別有情假法遍遣二假所緣法智為相云何遣各別有情假所緣
 【第十五紙】
 402 法智為相由此智於自身中不分別我相故不分別者是除遣義云何遣
 403 各別法假所緣法智為相由此智於自身中不分別色等法相故云何
 404 遍遣二假所緣法智為於由此智於一切処無有差別不分別我及法相故
 顯初
 405 遍行法界并令初地妙觀察智平等性智種類增長此解初句頌訖自下解
 406 第二句頌文中有五初明起觀証地々法界謂從此初地已後於二地已上
 一切
 407 九地修道位中無分別智觀余九種法界亦以三聞等三慧修地々中所有
 408 福智地々於彼一切功德法門聞思修等加行智等方便等位漸次修習
 409 如々は々地々之中隨其所応地々漸伏修道斷十六煩惱及随煩惱四斷
 隨地
 410 々所応漸滅修道斷不染汚無明俱生法執除初地所斷一分所余九
 411 分五由除所余九分顯余九種法界今九地中妙觀察智平等性智種
 412 類增長由此修習十地為因乃至仏地証得清淨法界及四智円満
 413 自下第四解第四相頌經謂安立衆生二諸種無尽果論陳釈中有二初隨
 七相
 414 此頌唯明妙觀察智二有義下隨六相中此頌明第三果相就初釈中其文
 415 有三初顯頌所明二謂此妙下別牒解釈三如是下總結所明就別牒解釈

- 416 中有四初解安立衆生二々即此下解諸種三如是下解無尽四即此下解果文並
- 417 易解隨六相解此明第三果相言果相者謂利答安樂是淨法界及四
- 418 智果故文中有六初總顯所明二謂淨法界下解安立衆生三以五義解利答安樂
- 419 二義差別四品類下解諸種五窮未來下解無尽六如是下解果 自下解第五
- 420 相頌經謂身語及心化善巧方便業論陳釈中有二初隨七相此頌唯明成所作智二有義下隨六相中此頌明第四業相就初釈中其文有四初顯頌所明二順
- 421 釈頌文三或復此智下逆解頌文四如是下結頌所明自下隨六相解其文有四
- 422 初顯頌所明二謂淨法界下總約五法以釈前頌三成所作下略約五法以釈前頌成所作智能起身語心三種化業此解初句以成所作智外化勝故
- 423 妙觀察智起方便業以妙觀察智善觀機宜稱機利益極善巧故其
- 424 余大円鏡智平等性智及淨法界起方便業以此三法能任運与一切三業
- 425 為方便故四身三種下広約五法以釈前頌初釈身業有三種一明自身相
- 426 心化謂轉變自身以化衆生二他身相応他謂寄他身變現利答三非
- 427 身相心化謂離自他身別起於化以利有情二如是語下明語化業亦有二
- 428 429
- 430 種一自身相応語化二他身相応語化三非身相応語化三明心化業文中有三初
- 431 【第十六紙】明心化有三自身相応心化謂於自身之心実見分上化現種々心及心法影像差
- 432 別二他身相応心化謂令他人之心実見分上化現種々心及心法影像差別此自他
- 433 化心並是相分似見分現非実見分也似有縁慮実無縁慮二有說者下序異說明
- 434 心無形質実不可化文中有三初但由定力能令自心解非分法名化自心二加被他
- 435 人失念得念名化他心然心無形実不可化三如論說下引說証心不可化即摂大
- 436 乘論等二說三此就二乘下釈通異說彰心有化文中有五初明前所引二說此就
- 437 二乘及諸異生定力而說彼定力劣不能化現無形質法若就諸仏菩薩不可思議定皆能化現二若不爾下立二種理証心有化一若心無化云何如来託生
- 438 王宮現貪瞋等二若心無化云何声聞及傍生知如来心三若心無化下引三說
- 439

440 証心有化初引涅槃經故言云何經說化無量類皆令有心二若心無化云
 何此
 441 經成所作智能化意業三若心無化云何深密有依他心四但諸化下釈通
 伏
 442 難云若心有化何故經論多說色化少說心化故今答云但諸化色能為境
 443 界生識之用同於五塵故諸經論多說化色實根有生識之用實有心緣
 444 境之用化根無發識之用化心無緣境之用是故化根及心但有相現不同
 445 實根心用故經少說心根之化又就二乘凡夫下類定力羸劣不能化心故
 446 諸經論少說心化五通外實有實云若有化心云何不化非情令心相現答
 447 非情以是心等相分云何復令心相分上更有化心相分現耶夫論相分依
 見分現是
 448 以自他身中所化心相此依自他見分上現非情既無實見故於非情不說
 化心又
 449 設非情若心相現則名有情非々情攝是故化心但說二種上來明成所作
 智變
 450 化三業如前已說下指前明妙觀察智名善巧業其余大円鏡平等性及淨
 法界
 451 名方便業悉如前說今更重指 自下第六解四智所攝眷属功德相謂定
 及總持
 452 門無辺二成就論陳釈中有二初総別兩相第一顯頌所明第六四智所攝

453 眷属
 功德相第二顯頌所明第五相応相以此兩相明義無異故俱別於前下合
 釈其義
 454 也自下別牒頌解其文有六初解定二解総持三解門謂通生有為功德通
 顯無為
 455 功德通引神力利衆生事故名為門四解無辺初約福智二種各有無量故
 言
 456 無辺又無量劫修故名無辺五解二前五波羅蜜為福德後五波羅蜜為智
 恵又
 457 自性眷属一々具二前五波羅蜜自性是福眷属是智後五波羅蜜自性是
 智眷
 458 属是福故十波羅蜜一々此具福智二種六如是下解成就謂如是定及総
 【第十七紙】
 459 持二門二種莊嚴於四智中一々智此悉具足以恒共相応故名成就又此
 四智一々各具
 460 二門二嚴依心清浄法界与浄法界不相捨離故名成就 自下解第七五法
 所成
 461 三身差別相謂自性法受用變化差別転就論陳釈中有二第一顯頌所明
 第七
 462 五法所成三身差別相第二顯頌所明第六差別相亦以此二俱弁三身義

無	463	〔釋〕別所以俱列兩相於前然後解合解也 自下第二釈経顯三身体用 文中有十
	464	第一釈三身名義差別第二又法身者究竟転依下明三身相用差別第三 又前五法撰
	465	三身者下明以五法撰三身差別第四如是三身受用变化既有生滅下明 三身
	466	常無常分別第五如是三身云何形量下明三身形量差別第六如是三身 一切如
	467	来為有差別為無差別下明諸仏三身有差別無差別第七如是三身為有 各
	468	別諸功德不下明諸仏三身各具殊伽沙數功德第八一切如来所化有情 為共不共
	469	下明受用變化二身所化有情為共不共第九又自性身寂滅安樂正属自 利
	470	下明仏三身自利々他差別第十或処説仏有二種身下明分別仏身名字 不同就
	471	釈第一三身名義差別中其文有四一解差別転謂法界自体実無差別隨 三身
	472	相用転變故名差別二自性下解三身別名文即為三々体義下解三身通 土尽
名	473	四如是下結是釈三身名義 第二明三身相用差別文中有二初別解 三身
	474	相用二如是略下結是釈三身相用就初別解三身相用中別解三身文即 為三
	475	々身雖別各有六義弁其相用法身六義者一以究竟転依出纏真如以為 其
	476	相二一切為無為等仏法平等所依三能起一切自在作用謂為縁々作用 四為一
	477	切無漏增上白法所顯五一切如来平等法身自体六微妙難測絶諸戲 論故契経下引説証法身微妙難測滅諸分別戲論不応尋思非尋思境顯
	478	微妙
	479	難測超過一切尋思戲論顯滅諸分別絶諸戲論第二明受用身相用六義 者一々
	480	切有為無漏功德円満為相此明從本有無漏種姓及習所成姓今得円満 二
	481	一切有為無漏功德諸仏之法共所集成三能起一切自在作用四從一切 無漏増
	482	上白法所起々者生也五一切如来各別受用身自体六微妙難測居純淨 土尽

483 未來際自受法樂此明自受用身現種々下明他受用身第三明變化身相
用六

484 義者一々切神變円満為相二一切化用共所集成此謂十方諸仏有化縁
共者

485 一切諸仏同処同時俱起化用共集成身各拠自變其実不共拠相用相似
同

486 処同時不相離故々撰為共三示現一切自在化用四一切無漏白法増上
所引此

487 謂用自受用身無漏為増上縁所引若從種生即是実徳属受用身今明
【第十八紙】

488 變化故但僧上所引五一切如來各別化用第二句拠所化機同故称共所
集成此以能化各異故言各別化用六微妙難側居淨穢土謂化下位菩
薩二乘異生下位菩薩令入大地化二乘之人令出三界化異生之徒令離
惡

490 趣問三乘同性經云受用身居純淨土變化身居純穢土何故此中明變化
身居

491 淨穢土答三乘同性經且拠釈迦仏化身現処純穢故作此説其実化身通
淨穢土或約相統一化故言居純穢土此經拠随化機縁暫變穢為淨如以
足

493 指按地暫變穢為淨故言居淨也上來別解三身相用訖自下第二総結所

494

495 明
是三身相用 自下第三明以五法撰三身差別有兩師所撰不同今先明
496 第一師説文中有三初正以五法用撰三身二広引所説別証三身三又仏
三身下

497 略引所説通証三身就初正撰中第一以前清淨法界大円鏡智撰自性身
第二以

498 中間平等性智妙觀察智撰受用身第三末後以成所作智撰變化身自
499 下第二広引所説別証三身初広引説証前二法撰自性身一切經説真如
是

500 法身故撰大乘論説転去阿頼耶識得自性身然論復云大円鏡智転第
501 八識得故知前二撰自性身二広引所説証後一法撰變化身此經中説成
502 所作智起諸化業莊嚴論説成所作智發起無量諸變化事故知後一撰變
503 化身三広引所説証中二法撰受用身平等性智撰大乘説能於淨土
504 随諸菩薩所樂示現種々仏身妙觀察智亦如撰大乘論説能於集会
505 説法斷疑撰論又説転諸転識得受用身故知中二撰受用身自下第三別
506 引撰大乘説通証三身此用十殊勝中第十智殊勝撰故知三身此得有智
507 自下明第二師以五法撰三身文中有三初明五法撰三身二諸經此説下
引説

508 証三身三雖三種身下為初家釈会所引經就初五法撰三身中初一淨法
界撰

509	自性身二四智自性及相応數法并共有或等是自受用身為地上菩薩所現	510	一分細相摂他受用身三即前四智自性相応共有等法若為地前諸菩薩等諸現一分麁相化用摂變化身自下第二引説証三身初引五説証自性身一諸經此説清淨真如為法身故二讚仏論説如來法身無生滅故三藏云讚仏論は無著菩薩造三莊嚴論説仏自性身本性常故四能断金剛波若論説受持演説於法身為証得因於余二身為生因故因既不同故知身果亦異五諸余經論説究竟転依以為法身転依即是清淨真如非対治道是転依也唯此五説故知法身唯淨法界真如為性	516	【第十九紙】	517	第二引証受用身文中有五初引莊嚴論説大円鏡智是受用仏二引撰大乘説転諸転転得受用身此具明三智為受用身三釈今云撰論転阿頼耶識得法身然撰大乘論説転去阿頼耶識得法身者此説転去第八阿頼耶識中二障種子顯得清淨転依真如以為法身非説鏡智為法身也以莊嚴論説鏡智是受用身故四以自他化用証受用身与法身有異又受用身略有二種一自受用三無數劫修所成故二他受用為諸菩薩	522	現於身土受法樂故清淨法界無如此事是故不得合為一身五結彼四智一分	523	為受用身故言是故四智相応共有及一分化為受用身第三引説証變化	524																					
540	論成已初説三身之常法身雖離分別以無生滅故説名常受用	539	故三相続常謂變化身没已復現化無尽故四如是法身下唯莊嚴	538	本性常謂自性身本來性常故二不斷常謂受用身恒受法樂無間断	537	不生滅以無断絶故説名常三引莊嚴論為莊嚴論説常有三種一	536	身於十方界数々現化無断絶故如常受業如常施食受樂施食非	535	常受用變化雖有生滅受用身以恒受用種々法樂無休廢故變化	534	身所依法身常故能依二身従所依説常二明受用變化作用不断是故名	533	色受想行識亦復如是故言諸仏身常下答々中有六初明受用變化二	532	受用變化既有生滅云何經説諸仏身常涅槃經云捨無常色獲得常	531	自下第四明三身常無常分別文中有二初明外人執教為問如是三身	530	智体變化身是智所起用似智現故仮説為智亦無有過	529	殊勝摂非三種身此用智為体所以然者法身是智所依証受用身正是	528	身是受用身摂自下第三為初家釈会所引經雖撰大乘云三種身此智	527	化 作智是化身摂故知成所作智所現相分化業是化身成所作智見分非即	526	成所 故知非是真實功德但是化用二一切經論唯説成所作智能起化業非即	525	界 中有二初一切經論此説化身為化地前衆生現種々相既是地前衆生境	524	身文

541	變化雖有生滅依於常身受用身無間斷故變化身恒相統故	542	々說名常五結会前經說常所以如向引涅槃經說諸仏如来色受等法一切常住	543	者当知依此莊嚴論說不斷相統道理名常非無生滅說為常也六以修生道	544	理証二身無常文有四句初以本有無漏種子從無數劫修習增長是故無常以常住法無增長故二生者皆滅四記論中一向記故受用變化既從因生	545	【第二十紙】		546	定有滅故三色心之法現量共智皆無常故四常住色心世間相違以於世間曾	547	不見故 自下第五明三身形量各別文中有二初問云如是三身云何形量	548	第二答々中三身形量文即為三第一明法身形量文中有三初物法身体故言法	549	身清淨真如為体二明真如法身就實論無有形量故言真如即是諸法實性	550	法無辺際遍一切法無処不有猶如虚空不可說其形量大小三廢實論相々同	551	虚空遍一切処義說法身之量遍一切也第二明受用身形量文中有二初
552	列有色非色兩章門第二隨二章門広釈其相初解非色章門非色即是受等四蘊受等諸法無形質故亦不可說形量大小若就四蘊所依之身及四蘊所知之境亦得從身從境說言身及四蘊遍一切処自下第二解有色章門更開兩門故言色有二種一者實色二者化色就解實色中有四初明仏果實色修因所得周遍法界無有限量二於生死下明三界分段實色三十地下明變易實色四金剛喻定下正明諸仏円証所感色身	553	無有限量初言實色者諸自受用身色三無數劫修感色身相好等業転有漏	554	變易根色得仏無漏五根等色無量相好莊嚴其身周遍法界称實淨土故無限量二於生死下拳分段有限量顯無限量於生死地中業有分限阿頼耶	555	識所變身形大小不定如欲色二界人天等衆所感分段身量大小悉皆不定	556	三十地菩薩下明諸菩薩所感變易身量大小亦不定如二乘人証小果已廻心	557	向大三無數劫皆受變易身以皆用無漏定願善根資薰有漏感身業及名言	558	種子合所感身果漸々勝妙故三無數劫中麁妙不定若直往來菩薩地前定	559	皆受分段身以未得無漏故道証初地乃至七地已來証得無漏隨在何地	560						

石山寺藏 靖邁撰『仏地經論疏』の研究

一一五

566 即以無漏資感身因爾時即受變易報若不以無漏資感身因定受分段
567 報若至八地已上一切煩惱不復現行更無煩惱間業感生爾時唯以無
568 漏資身遠近所感之身微妙不定故言十地菩薩其形轉大四金剛喻
569 定下正明諸仏円証所成之色無有限量文中有九初明金剛喻定現在前
570 時滅一切煩惱所知等障二以妙觀察智平等性智善根勢力所感色身充
571 滿法界遍實淨土三明由大円鏡智相応淨識所變身土無限量故四釈通
572 伏
々難々云一仏之身遍法界云何更容諸余仏身故今釈云諸仏識變同処
同時其
573 相々似亦不相障礙等如衆灯明也五尽未來下明常無間斷六依此故下
結由
574 能變之識功用既広能令諸仏受用身土具広大菩薩意樂七如是下明受
用
【第二十一紙】
575 身土之量唯仏乃知非菩薩根証八一々色根下明身既周遍所以五根普
証一切境
576 無有障礙九是故下引說証身無礙滿 第二解化色章門言化色者即
577 他受用身色由悲願力為入大地諸菩薩衆地々同所現之身種々各異相
好言
578 奇身土形量悉此不定 自下第三明變化身形量由悲願力為地前菩

579 薩現
變化身此亦通色非々色々即是變化意業力無畏等諸功德相無形質故
無
580 有形量色身變化身語業等隨衆所宜形量不定如経広説自下第六明諸
仏
581 三身有差別無差別文中有二初問如是三身一切如來為有差別為無差
別
582 二答中有四第一明法身亦有差別亦無差別初明無差別者謂法身實性
一切如來
583 此共有故無有差別二明亦有差別者就能証因有差別故仮説差別第二
明
584 余受用變化二身亦有差別亦無差別初明有差別者謂各別因感各別自
585 性實有差別二言亦無差別者謂但無別執計隨所化機同処相似利衆意
樂事
586 業平等説無差別三引說証成是故経言一切諸仏由所依止意樂事業於
三種身
587 如其次第説無差別由依止是法身由意樂是受用身由事業是變化身故
588 言於三種身如其次第説無差別四重釈成無差別相所依法界無差別故
重
589 釈前由所依止無差別利衆意樂無差別故釈前意樂無差別共作事業

590 無差別故釈前事業無差別 自下第七明諸仏三身各具宛伽沙
 591 數功德文中初問如來三身為有各別諸功德不下答中有四初明法身
 592 文中有四初明法身體謂用出纏轉依真如為相々即體也二真実下釈成
 593 清淨
 義所以真実善有本性清淨以遠離雜染法故三一切下正具諸功德謂一
 594 切無漏功
 德所依止故一切功德真実性故説名具足一切德四明所無謂雖為色心
 等依止而
 595 自体無色心差別無漏有為功德二明受用身具宛伽沙有為無漏功德謂
 596 受用身具足一切随自利益色心等法宛伽沙真功德及為他地上現化相
 597 宛伽沙
 功德三明變化身唯具一切為地前二乘現宛伽妙色心等化相功德四総
 結三身
 598 此具宛伽沙功德 自下第八明受用變化二身所化有情為共不共初
 門一
 599 切如來所化有情為共不共答中有三初明一切諸仏所化有情此共文中
 有
 600 初以一々仏此能化度一切有情二明一切仏福德智恵一切平等三明一
 切仏勤修
 601 行願同為濟生求菩提故四引証説成如經中説一仏所化有情願一切仏

石山寺藏 靖邁撰『仏地経論疏』の研究

602 故二
 明一切諸仏所化有情此悉不共文中有二初以一切仏所諸有情類本自
 相属是
 603 故不共二引四説証成所化有情決定相属初引釈迦如來慈氏世尊
 604 所化善根先熟後熟以証不共二引仏將滅自言所度已説以証不共三引
 605 仏涅槃留化待生以証不共四引諸仏能化所化決定相属以証不共第
 【第二十二紙】
 606 三如実義不明論主正義文中有五初明論主自立宗云所化之生有共
 607 不共文中有三初明無始時來種姓法爾更相繫属或多所化唯属一仏此
 是不
 608 共或一所化属於多仏此則是共二明菩薩行因化物亦有共不共謂諸菩
 薩修
 609 因之時成熟有情亦不決定或多菩薩共化一生或菩薩各化多生三以因
 既有共
 610 不共故成仏已或共化度或別化度自下 第二破前第一定共之執文
 中有四初明若
 611 所化生一向共者世間唯応一仏教化不須多仏以一仏能化一切衆生故
 唯応一仏常
 612 住世間教化衆生余仏此応入永寂滅二若一仏化生即是諸仏亦応不化
 二乘今其

- 613 作仏故今云仏亦不応化余二乗衆生令趣大乘而得成以無化生用故三諸仏但応
- 614 化諸凡夫令得二乗但繋故今云諸仏但応化彼凡夫令得二乗入永寂滅以二乗果
- 615 極易得故誰有智者知化彼人成仏之時無有利生之益共二乗等乃捨易得二乗
- 616 之果就教難得菩提無所利益如燃灯明日無益日光耶四是故下結仏所化非一向
- 617 共自下第三破前第二不共之執文亦有四初明若所化生一向不共菩薩不応
- 618 発願歷事諸仏既一菩薩歷事多仏故則諸仏同一所化二若所化不共華嚴経説蘇達那等亦不応事多善知識蘇達那唐云善才即善才
- 620 童子歷百二十城事善知識是也三若所化不共諸仏不応以已所化付嘱後仏四
- 621 如是等下牒与経違結成其共謂若所化一向不共則与如是等経三事皆悉相違是故不応一向不共自下第四為■已宗釈通二家所引之経初家云一
- 622 切諸仏皆能化度一切有情以福德智恵皆等発願拔濟一切有情故々知所
- 624 化皆共故今通云雖菩提期願復同一々仏有化一切有情功能然諸有情
- 625 根無有通感一切仏能是故有情於無縁仏所不肯受亦不樂見聞如須達家
- 626 老婢即其事也雖一々仏尽未來下為第二家釈通所引経謂底沙仏觀釈迦仏所化根熟及言我所応度者皆以度訖并留化待化非想故今通云雖一々仏尽未來際常住世間化有情類而各隨一化所宜応度之類或現等、
- 627 覺或現涅槃或名釈迦仏或称慈氏尊隨一化相所度有情皆言度訖而入涅槃其實如來尽未來際常住世間化諸有縁非謂有縁一時皆度已訖設生
- 630 非想者宜見釈迦仏於此化中留化得度故留化待亦不与彼常住世間利生相違
- 631 第五初家通難初家難云若諸如來同一所化有情何仏独自現而化彼耶諸仏皆有悲願力故不可一仏多化余仏止息不化故今答云但是十方於此
- 632 有情有縁諸仏此十方仏同処同時於受用身後得之智見分之上各現
- 634 【第二十三紙】
- 635 一化其狀相似不相障礙更相和雜為増上縁令所化生於本識中出世種子為因縁令其眼意二識如是變化謂見一仏為現神通為説正法如是諸仏化相非一更相和雜不相障礙等事不可思議非達唯識
- 636 正理不可能了皆是自識之所變現 自下第九明仏三身自利々他
- 637 638

639 差別文中有四初明法身其中有三初明自性寂滅正属自利撰二為增
 640 上緣答衆生故兼属利他三又与受用變化二身為依止故二利所撰二明
 受用身
 641 文亦有三初明具有二分一自受用法樂分謂三無數劫修自利行滿足所
 証
 642 色等実身令自受用微妙喜樂二他受用法樂分謂三無數劫修利他行
 643 滿足所証色等化身令菩薩受大法樂三由此二分下明俱利或唯自利撰
 644 謂自受用分或唯利他撰謂他受用分或說俱撰通論二分此不相違三
 645 明變化身唯為利他現諸化相故利他撰第四三身相對四句分別如是三
 身有
 646 四分故得為四句一受用非變化諸自利分実受用身二變化非受用謂變
 化
 647 身為化地前三乘凡聖雜類生故或僂或妙或令歡喜或令怖畏改転不定
 俱
 648 名變化不名受用不必令他受現法樂故三亦受用亦變化謂為地上所現
 化
 649 身令諸菩薩受法樂故々名受用隨時改転不決定故亦名變化四非受用
 650 非變化謂自性身文略不說然前文云三身四分得為四句唯前亦得取為
 第
 651 四句自下第十明分別仏身名字不同文中有二初明二名不同或処経說

652 二身一者生身二者法身若真如自性身若隨自利答実受用身此二種身
 653 俱名法身自性身為諸修生無漏功德諸法所依止故々名法身若実受用
 654 身為修生諸無漏功德法所集成故々名法身若為地前所現變化身及為
 655 地上化受用身此二俱名生身為隨地前衆生所宜於淨穢土中數現生故
 656 々名生身若隨地上菩薩所宜於淨土中數現生故亦名生身自下第二明
 十名不
 657 同謂又余華嚴經說有十種仏一現等覺仏華嚴云無着仏安住世間成正
 658 覺故謂釈迦文仏為太子時遊四城門是生老病死深見厭離無所染着
 659 捨之出家詣菩提樹成等正覺故言現等覺仏二弘誓願仏華嚴云
 660 願仏謂仏住於因中値釈迦仏聞說正法便發弘誓願當來世若得作仏還
 661 似釈迦仏故今成仏一如本願故名弘誓願仏三業異熟仏華嚴云業報仏
 662 謂如王宮生身依大乘教実是化身若依小乘教以為異熟身如來為菩薩
 663 時示罵迦葉仏云何有沙門能得菩提以無上菩提極難得故為是□□五
 【第二十四紙】
 664 年習定六年苦行方得菩提故名業異熟示作惡業今雖成仏現受
 665 余果如金鏑馬麦傷足出血等欲令有情深信因果速得無疑決定智
 666 故四住持仏華嚴亦云持仏謂諸仏所以變化居世間者為悔纏亦纏有情
 善
 667 巧方便說除悔纏法令其隨順仏法如須扇多仏雖復示入涅槃然留化身

利

668 益有情住持仏法亦如多宝如来雖又滅度而以全身宝塔処々証經令生、
669 隨順皆是住持仏也五變化仏華嚴云涅槃仏謂雖復示現涅槃而化身猶
在

670 利生如此論上云又契經説仏涅槃時觀一所化有情現在非想非々想処
当生此間

671 心為仏化留一化身潛住此界先所受身現入涅槃彼從非想非々想没来
672 生此間仏所留化為説妙法成阿羅漢六法界仏華嚴亦云法界仏謂法身
充滿

673 無処不至故名法界七心仏華嚴亦云心仏謂大円鏡智与第八淨識相應
心為体

674 以大円鏡智相應淨心安住殑伽沙無漏諸功德故八定仏華嚴云三昧仏
謂平等性

675 智恒与四無量定相應大悲平等無執着故九本性仏華嚴云性仏謂妙觀
察智善

676 達衆生根本性無称欲説法斷疑与衆生作決定故十隨樂仏華嚴云如意
仏謂成

677 所作智隨衆生意樂起三業化善巧方便利有情故前五是變化身故云世
俗第六

678 法界仏是法身後四仏是受用身故言後五是勝義隨其所応下結勸令知

此之十仏

679 三身所撰此上所解十仏並唯華嚴經及此論義意而釈也上来別解七相
680 六相訖自下第八兩句結上所明諸仏同説故云如是淨法界諸仏之所説
此中所言

681 法界通名五法為法界以四智依於法界故法界得法界名所以能依所依
俱名法

682 界就論釈中有二初約七相以解謂如是如来清淨法界諸仏同説具足仏
地五

683 種法及属眷功德三身差別二約六相以解謂如是如来清淨法界諸仏同
説具

684 足仏地自性等六句義相也自下大段第六總結略所説為聖教所説分
故言

685 由此四頌略説仏地一切功德及前長行説仏地一切功德應知總名第
二聖

686 教所説分説自下第三明依教奉行分文中有二初牒經文故言如時薄伽
梵説是

687 經已乃至信受奉行第二論師解釈々々中有三初總顯所明故言此中顯示
聞法衆会

688 依教奉行二由仏淨識下約体以解聞仏所説歡喜奉行謂仏如来第八淨
識

689 所有三藏教法種子為平等性智大悲之所擊發變似契經等於仏第六意
識上教

690 法相分顯現為有情相為本性相作增上緣力聽法時衆各自阿頼耶識心
聞法善

691 根種子成熟於自耳意識心之上似彼契經等教義影像相分々明顯現謂
聞

【第二十五紙】

692 仏説此生歡喜信受奉行三解諸大声聞等諸声聞衆及天人阿素洛等若
居淨土中間此經者此是現化所化若於穢土中間此經者或現化作或是
真

693 實若所居土受用變化淨穢二土之体同処同時不相障礙聽法衆会所聞
教法雖同所見身土各異不相障礙仏及地上諸菩薩等亦見地前及声聞
等

694 并淨穢等土故言上亦見下地前徒衆及声聞等雖見穢土及仏化身不見
仏受

696 用身及以淨土并地上菩薩故言下不見上隨其所見各々不同利益安樂
事此

697 成就上來第五随分解釈以通玄指分訖 自下第六以釈大功趣果利
生分文中四初有兩句挙釈大功二有一句以功施物三有一句用因趣
果四有四

699

700 句永濟群生初言仏地甚深諸句義者正挙所釈之經仏地甚深諸法句謂
所釈之教仏地甚深法義謂所釈教下之理若教若理非下愚所測故曰
甚々深々教理唯仏窮証諸菩薩等見皆未了故論主云我今隨已智
分所解以略釈訖亦願以釈經所生功德普施一切諸群生類即是第二
以功施物三願以釈經大功已及所施群生等成無上菩提之果即是第
三以因趣果四自下四句明以釈經論教若有書写所生之福從聞生思從
思生修故言後々勝善等流果願此所生三慧燃無尽灯展轉相續尽未
際

706 利益安樂一切含識永無斷絶

707 極果微妙難思議 彼慧日輪已開顯 一切無導諸盲冥

708 蒙光咸悉具知帰 我以随喜等流福 異学長燃無尽灯

709 願此普共諸群類 俱萃蓮花世界海

710 仏地經論疏卷第六

711

712

【後註】

090 「未」↓「来」。

118 「滅」↓「滅」。

159 「障障」↓「障境」。

180 「耶」↓「邪」。

354 「釈」↓「精」。
305 「未」↓「未」。
271 「耶」↓「那」。
221 「唯」に見せ消ち↓「准」。
199 「答」↓「益」。
198 「塵」↓「塵」。
198 「湿」↓「涅」。
197 「妄」↓「忘」。
197 「達」↓「遲」。
196 「耶」↓「邪」。
194 「若」↓「善」。

709 「異」に見せ消ち↓「共」。
706 「未未」↓「未来」。
622 「■」↓「符」。
614 「但」↓「涅」。
486 「化」↓「作」。
477 「側」↓「測」。
447 「以」↓「已」。
428 「答」↓「益」。
418 「答」↓「益」。
417 「答」↓「益」。
404 「於」↓「相」。